麻原彰晃の世界 PART 6

願望成就の秘法

Uttama Dhamma

今生と来世を
幸せに生きるウッタマダンマ
ここに公開！

尊師、直撃取材に応える！
「本当の幸福と死」（『十人十色』一九九一年 九月号より）

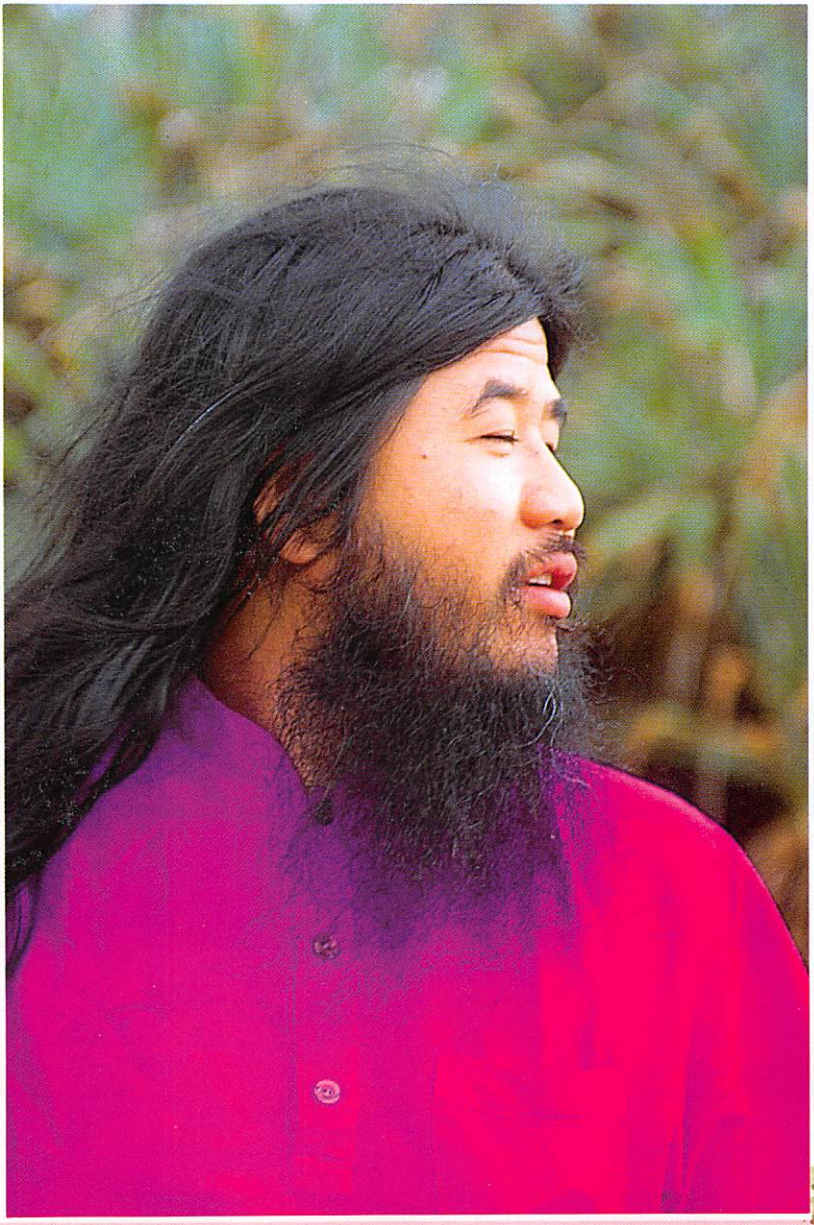
麻原彰晃

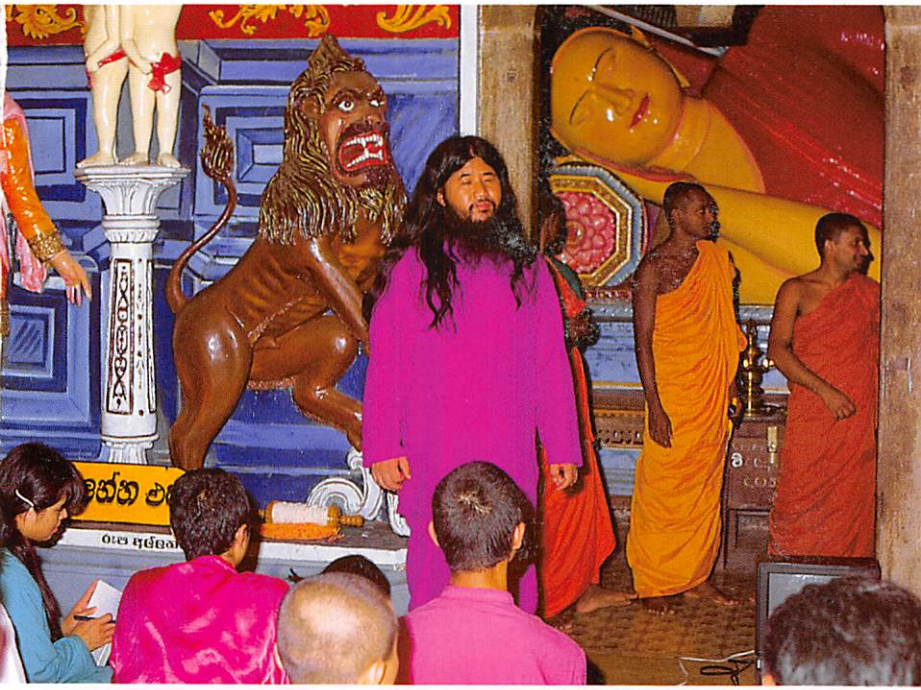
麻原彰晃の世界 PART 6

願望成就の秘法

Uttama Dhamma

麻原彰晃





はじめに

人生を思いのままに生きる——これは、わたしたちだれもが願ってやまないことではないでしょうか。様々な願望が自由にかなうならば、どれほど楽しい毎日が送れることでしょう。

ペンダントや音楽テープ、絵、あるいは宗教団体そのものなど、巷には願望成就をうたい文句にするものがあふれています。しかし、これらは本当に効果があるのでしょうか。また、危険性はないのでしょうか。一時的にはいい思いをしても、あとでひどい目に遭ったでは困りものですね。果たして、安全で確実な願望成就の方法はないのでしょうか。

そこで本書では、麻原彰晃尊師が説かれる、仏教の教義にのっとっ

た正しい願望成就法を豊富な体験談とともに紹介することにしました。

仏教の修行は、本質的に善行をなし、悪行を滅することにあります。つまり、「功徳を積むこと」を第一とするわけですが、この実践によって、まず心の安定を経験し、やがて様々な願望が成就する段階に入っていきます。そのときには、本当に無理なく、本人ですらそれと気付かないような形で願望がかなうようになります。そして、最終的には生も死も超えた状態、「解脱・悟り」に到達します。つまり、この世だけではなく、死後の人生までも思いのままになってしまう、低次元の願望から高次元の願望までかなってしまうということですね。

取りあえず本書では、現実生活での幸福に話を絞ってあります。また、何のための願望成就なのか、そもそもどのように生きるべきなのかについての一助にもなるように構成されています。そこでそ

の内容も、来世高い世界へ生まれ変わる、あるいは解脱・悟りを得るといったことにまで触れることにしました。その点、世間一般の願望成就を説く本とはひと味違った内容となっているでしょう。

まずは、本書を読んで、実践しましょう。そして、真の修行の効果と力を確信してください。あなたのありとあらゆる願望が成就し、やがてはその願望も、より高い次元のものへと変化し、より大きな幸福を得られることでしょう。

一九九一年十月　広報編集部

森原彰晃の世界 ※PART 6

願望成就の秘法

今生と来世を幸せに生きる
ウッタマダンマここに公開

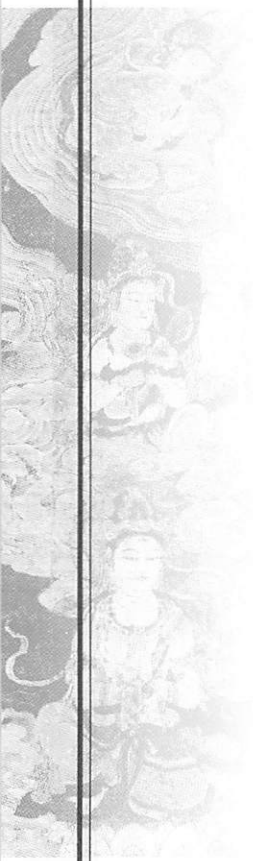
——目 次——

第一章　正しく、安全な願望成就の秘法

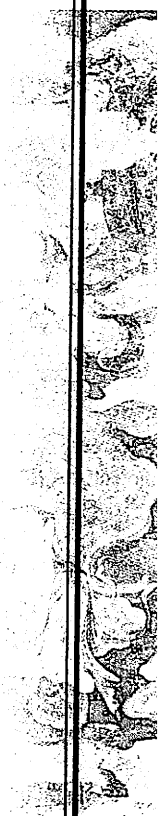
◆第一話　意のままに現実生活を生きる秘法！——10
「奥儀・四つの如意足——その一」

◆第二話　就職から解脱まで、完璧に願望をかなえる！——24
「奥儀・四つの如意足——その二」

◆第三話　間違いのない幸福を手にするために――
「布施と持戒――その大いなる恩恵」　32
◆第四話　現実を正しく見つめ、成功へ導く――
「最高の秘儀――四預流支」　49
◆第五話　集中――徳の流れを制御せよ！――
「ひたすら教学、布施・持戒」　62
◎こんな願いがかないました！――健康篇　72
第二章　幸福はあなたのもとへ
◆第一話　安定した心、思いどおりの日々――
「十戒が幸福をもたらすのは」　78



◆第二話　他の苦しみを思いやれてこそ――「利他の心が生む幸福」――83
◆第三話　修行者になる――至福へのステップ――「病に侵された心を癒す」――94
◎こんな願いがかないました！――仕事・アルバイト篇――108
第三章　最高の願望成就――希望に満ちた来世を得る
◆第一話　今生、そして来世の目標をしっかり定めて――「福徳をもたらす十善の実践」――118
◆第二話　アナータピンディカ長者に見るカルマの極意――「悪業が尽きて得る大楽」――131



◆第三話　真理を根付かせ、徳を根付かせる――「願望をかなえ、願望を超える」　150

◆第四話　人間界から天界、そして仏陀へ――「すべては思いのまま、それが功徳」　159

◆尊師からあなたへ――ワンポイント・メッセージ　174

◎こんな願いがかないました！――恋愛・その他篇　179

●尊師、直撃取材に応える！――「本当の幸福と死」（「十人十色」一九九一年九月号より）　183

第一章　正しく、安全な願望成就の秘法

第一話　意のままに現実生活を生きる秘法！

「奥儀・四つの如意足――その一」

◉本当の幸福になれる道――真理

ある地方に、津波がしょっちゅう襲ってくるとしよう。この津波に対して堤防を築くこと、これは災害を招かないための最良の方法である。同じように、例えばある人が事業を営んでいて大変受注が多いと。そして設備もそろっていると。そのような状態のとき、従業員が少なければ良質の従業員を大量に入社させる。これは、事業を発展させるための道である。

なぜ、わたしがこういう比喩から今日の説法入ったかというと、真理とは科学なのだということである。つまり、現実の生活、あるいは現実を超えた生活に対

してどのようにアプローチをするならば本当に幸福になれるかと。あるいは、どのようなアプローチをするならばその問題が解決できるかと。これが真理なのである。

例えば、真理の基本的なものとして、四つの如意足、二正勤二正断、五根五力、あるいは八正道、七覚支、四念処といったようなものがある。この一つ一つはそれぞれ目的があり、その目的に応じた形で何をなせばいいのかということを、仏陀釈迦牟尼がいにしえの聖者と同じようにお説きになった法なのである。

例えば、例を挙げるならば四念処。「我が身これ不浄なり」と。これは、サマナが、つまり出家した修行者が、身に頓着しないと。あるいは、異性に頓着しないための法であると。不浄なるものに対して、なぜ頓着するんだという考え方がそこにはある。

「受は苦なり」と。これは、感覚というものの要素が、例えば快楽と苦しみとが表裏であると。つまり、快楽に対して強い感覚を持つ人は、苦しみに対しても強い感覚を持つんだということ。よって、この感覚から離れるべきであるという

考え方。

「心は無常である」と。自己の心もそうだし、他人の心もそうだけども、心というものは絶えず変化し、よって、心を拠り所にするべきではないと。もっと心の奥深くにある我所、真我に対して確信を持つべきであると。この心は無常なり、心は無常なりという法に熟達すると、例えば他に裏切られたとしても、欺かれたとしても、それに対して全く心を動揺するようなことはない。

「法は無我なり」と。これは、観念は無我であると。つまり、社会通念に流されていると真実が見えなくなり、それによって法の落伍者となり、そして来世悪趣へと転落すると。よって、一般通念ではなく、あくまでも経典にのっとり、真理にのっとり現象を分析し、自分の道を誤らせないと。これが、「法は無我なり」なのである。

◉四つの如意足——幸福へと導く法

今日の本題は、〝四念処を説く〟ということが本題ではない。これはあくまで

も、七科三十七道品が目的に応じて形成されたものであり、そしてその中の、特に「四つの如意足」が、皆さんを幸福へと導く法であるということをお話ししたいがためのアプローチである。

この如意足というのは何かというと、意のままにこの現実の生活を生きる。あるいは、意のままに修行も含めて目的を達成するということが、この如意足という意味である。

では、この如意足には何があるのかというと、まず「決意の如意足」、第二番目は「精進の如意足」、第三番目は「思念の如意足」、第四番目は「観慧の如意足」である。

この「決意」というのは、わたしはこれをこれをこうしますよという決意だね。「精進」というのは、要するに二正勤二正断のことであると。つまり、不善法を離れ、善法を増大させるということであると。そして「思念」とは、繰り返し繰り返し一つのことを思い続けると。「観慧」というのは、要するに観察の観に、智慧の慧だけども、現象を正確に見つめ、それを智慧によって解き明かすと。こ

の四つが、四如意足なのである。

◉解脱のための四如意足

では、この四如意足を使って、例えば解脱に対して、例えば受験に対して、例えば恋愛に対して考えてみよう。

まず解脱に対して。わたしは解脱をしたい、わたしは解脱をしたい、わたしは解脱をするぞ、わたしは解脱をするぞと思念する。これが決意如意足である。この決意如意足を十万回、あるいは二十万回、あるいは百万回と唱えるうちに、その人の心は解脱を絶対しなきゃいけないんだという確信が出てくる。これが第一の如意足である。

では次に、解脱をするための条件は何かと。自分はどうも布施功徳、あるいは奉仕ができてないから、その奉仕をもっと増大させるぞと。あるいは、布施を増大させるぞと。これが精進如意足の「勤」、つまり努力をする如意足なのである。そして、精進如意足の「断」は、例えば十戒の中の、自分自身はどうも小さな生

き物を殺すと。あるいは、邪淫をなすことによってエネルギーを漏らすと。よって、まず殺生はしなくても済むから、これをやめようと。そして邪淫についても、少しずつ少しずつやめ、これから三カ月後、あるいは六カ月後に完全にシャットアウトするぞと。これを思念し、努力し続けると。これが二番目の精進如意足である。

　では、三番目の思念如意足とは何かと。わたしはオウム真理教の信徒であると。そして、わたしは今布施の実践、それから戒律の遵守を徹底し出したと。これだけの土台があるんだから、わたしは必ず解脱へと向かうはずであると。よって、わたしは解脱ができる、わたしは解脱ができる、わたしは解脱ができると思念すると。これが三番目の思念如意足である。

　では、四番目の観慧の如意足とは何かと。では、そのためにはどのようにしたらいいだろうかと。例えば、わたしは在家で解脱をするのか、あるいは出家で解脱をするのか。例えば在家で解脱をする場合、当然最終段階では極厳修行の長きにわたっての修行があるだろうから、それまでにお布施を蓄えようと。あるいは

出家の場合、わたしはどうもまだ教学が入ってないからひたすら記憶修習しようと。そして、出家してもいろんな煩悩が出ないように自己をチェックしようと考え、分析し、そして達成すると。これが、観慧の如意足である。

つまり、この四つの如意足を実行し続けるということは、いかなる人でも、その目的、解脱に対して近付くわけである。

◉受験、学力アップのために

では次に、これを受験、あるいは学力アップに向けたらどうなるのかという検討に入ろう。まず、受験にしろ学力アップにしろ、よし今日から自分は努力をしようと。とにかく、自分の目的の大学、あるいは高校、あるいは成績、例えば数学を十点上げるとか、二十点上げるとかいうことに対して、決意を表明すると。そして、それを同じように、五万回、十万回と唱え続けると。例えば、数学が十点上がりますように、数学が十点上がりますようにと。数学を十点上げますと、ね。

そして、例えば二番目の精進如意足においては、その中の勤と断に分けると。そして、勤については、例えば今まで二時間勉強していると。これを三時間に増やすと。あるいは、一日二ページ問題集を進めていたのを三ページに増やすと。これが、勤の如意足になると。では、断の如意足とは何かというと、例えば今まで睡眠を八時間とっていたのを六時間に減らそうと。あるいは、暗性食をとっていたのを、暗性食をやめようと。これが、断の如意足になると。

そして、次は思念如意足である。自分は今までよりも、例えば三〇パーセントアップの勉強をしているんだから、成績は上がって当然であると。あるいは、これこれの勉強をこれだけやっているのだから、自分は受験へ通って当然であると。受験を通過して当然であると。このように思念し続けると。これを、三万回、五万回、十万回と行なうと。

そして最後の段階で、対象となる学問、例えば数学、あるいは受験に対して分析を加えると。例えば、わたしの欠点は幾何にあると。例えば、三角関数、例えば積分でも回転体に対してちょっと弱いと。ということは、そのどこが問題なの

かと。公式の記憶ができてないのかと。あるいは、計算ミスなのかと。そこらへんを十分に検討し、そしてそれを取り除くと。これが観慧の如意足である。

つまり、この一、二、三において、土台を固め、四番目でそれをチェックし、そして分析し、検討し、改正すると。これをなすならば、いかなる自己の欠点があったとしても、それを乗り越えることができるはずである。

◉素敵な恋人を手に入れる方法

では、恋愛についてはどうかと。例えば、ここに二十二歳の男性がいたとして、二十五歳までに素敵な恋人と結婚したいと。しかし、今は恋人がいないとしようと。よし、自分は二十五歳になるまでに結婚すると。素敵な人と結婚すると。それを決意すると。これを五万回、十万回と行なうと。

そして、そのためには条件を分析すると。例えば、女性の好むタイプというのはまず身綺麗であること、そして優しいこと、お金があること。ちょっとね、下賤な話になったけども。このような、あるいは家柄がいいことと、まあいろいろ

あるだろうけども、その中で、どうしようもない、例えば家柄とか、ね、あるいはハンサムとかいうのはどうしようもないと。ただ、身綺麗で優しくて、まあある程度のお金を持つことはできるだろうと。その努力をすると。そして、自分の欠点である、例えばお酒を飲んだら性格が変わるだとか、あるいは無責任だとか、そういう部分を断ずると。

そして、この一、二を通過した段階で、三番目の思念に入ると。わたしはこれだけの努力をしているのだから、必ずや素敵な人と巡り合い、結婚できると。それを思念すると。これをやはり、三万回、五万回と思念すると。

そして、最後に対象を絞ると。自分の周りを見渡し、この人は性格も良さそうだし、そして自分とはピッタリであると。この人の、まず好みの色は何であろうかと。あるいは、この人はどういう趣味を持っているのだろうかと。あるいは、どういうタイプの男性を好むのだろうかと。それを調査し、そして分析し、検討し、そのタイプに合わせると。

◉四如意足を包含するもの——四預流支

これが、如意足である。つまり、如意足というのは、神秘的なものではないということだね。要するに、科学なのである。そして、これらの如意足を自己のものに完全にするならば、この世を意のままに運んでくれる素晴らしい乗り物を手に入れたことになる。

しかも、仏教の中で、この四つの如意足というのは、ほんの土台のほんの一部であるということをここで付け加えておきたい。

では、それらのすべての法は何に内在されているのだろうか。それは、四つの預流支である。つまり、三宝に対する帰依。これはグル、そして、まあここでいうグルというのは、シヴァ大神の化身であるグル、あるいは諸々の仏陀のすべての徳を備えたグルという意味になるわけだけども。次に、真理。この真理というのは、今言った四つの如意足、あるいは四念処だけではなく、多くの法、例えば十波羅蜜だとか、あるいは七覚支だとか、いろんな法を含んでいる真理。そして、サンガ。オウム真理教では、これは教団に当たります。つまり、真理を実践し、

神秘的なパワーを有している、あるいは自分たちよりも清浄である真理を実践している者、これに対して帰依をすること。

二番目は、多くの説法、あるいは多くの経典を読み、記憶修習し、それを自己のものにしてしまうということ。

三番目は、その記憶修習したものをもとに自分自身を検討し、そして自己を改善するように思念すると。

四番目は、検討したものを実際の行動に移すと。つまり、わたしの身の行ないについて、布施はできてるのだろうかと、奉仕はできてるのだろうかと、あるいは殺生を離れているのだろうかと、偸盗を離れているのだろうかと、邪淫を離れているのだろうかと。あるいは、口の行ないについては、妄語・綺語・悪口・両舌という四つの口のカルマはどうなっているのだろうかと。きちんと、それが達成されているのだろうかと。あるいは、心においては、貪り・嫌悪・無智といったものから離れているのだろうかと、法にかなった生活をしているのだろうかと、真理にかなった生活をしているのだろうかと。こう考え、実践すること。

この四つの預流支の中に、すべての法、つまり八正道、七覚支、五根五力、あるいは十波羅蜜、その他の諸々の真理が含まれているわけです。

例えば、今日の法を聴き、「よし、自分の今の人生の目標はこうである。よって、自分は四如意足の実践をしよう」と考える。あるいは、「自分は出家希望だから、今から四念処の実践をしよう」と考える人は、大変優れた修行者としての素質を持っている方だと思います。

一九九一年二月二十四日　大阪支部にて

第二話　就職から解脱まで、完璧に願望をかなえる！

「奥儀・四つの如意足――その二」

◉この世の願望を完璧にかなえる

この現象界を意のままに生きるためには、四つの如意足（にょいそく）というものがある。この四つの如意足は、決意、精進、思念、そして観慧（かんえ）の四つである。この決意とは何かというと、目的に対してしっかりと自己の決意を何度も何度も繰り返しデータとして入れるということである。精進とは何かというと、その目的を達成する上においてなさなければならないことの努力をなし、なしてはならないことをストップさせるための修行である。思念とは何かというと、その目的直前において、その目的がかなうということを、確信をデータとして入れるということである。

そして、観慧とは何かというと、実際その対象に到達するための図面をかき、その図面を何度も何度も繰り返し繰り返し思索し、そしてそれを具体化するということである。

もちろん、この四つの如意足以外にこの世の願望を完璧な形でかなえる道は存在しない。逆の言い方をするならば、この四つの如意足を具足している者は、いかなることについても達成可能であるといえる。

例えば、例を挙げよう。ここに中学生がいたと。この中学生は、例えば一流企業に就職したいと考えたと。そこで彼はこう考えたと。わたしはあの企業に就職したいと、わたしはあの企業に就職したいと。そして、その決意を五万回、十万回、あるいは百万回と心の中にデータとして入れたと。第二段階で、ではその企業にはどのようにしたら入社できるんだろうかと考えた。そのためになさなければならないことは、当然学力アップ、そして一流大学へと入り、一流大学に入るだけではなく、会社にコネをつくるということになるだろう。まず、さしずめは中学生の段階だから、一流大学に入るための精進をなしたと。つまり、勉学に励

んだと。これが精進である。そして、予定どおり大学に入ったと。大学に入ったら、よし自分はもうこの会社に就職できるという思念を何度も何度も行ない、そして実際会社に、入学をして即ね、会社訪問し、できるだけ多くの人とコネをつくると。そして大学でも、真面目に勉学に励み、予定どおり卒業し、そしてその企業へと就職すると。この全体の構造が観慧如意足である。

◉解脱・神通すら身につく四如意足

例えば、ここに解脱をしたいと考えた者がいたとしよう。そうすると、まずその人は、わたしは解脱をしたい、わたしは解脱をしたいと決意を表明すると。決意如意足である。第二番目において、解脱をするためには功徳を増大させ、そして悪業を滅尽しなきゃならないと。よし、まずは布施を徹底的に行なうぞと、そして奉仕を徹底的に行なうぞと。こう考えると。そして、自分自身が今達成していない十の戒律に対して、十の戒律を達成するぞと。こう考え、チェックし、厳しく修行すると。これが第二番目の精進如意足である。そして、この布施、持戒

が達成された段階で、三番目のいかなるカルマ落としに対してもじっと耐え、わたしはこのカルマを落としてもらってるんだから、必ず解脱できると。わたしは必ず解脱をするんだと。解脱ができると。こう思念すると。これが三番目の思念如意足である。そして、最終的には自己の心を見つめ、そしてそれを真理にのっとり作意すると。考え分析すると。そして、それを一つずつ静め落としていくと。これが観慧如意足である。そして、これをなすならば、必ずや解脱へと到達するはずである。

これは神通についても同じである。今から約一週間前、ウルヴェーラ・カッサパ（アストラル・ミュージック・インスティテュートのリーダー）と「超越神力」の主題歌を作っているときに、近ごろ他心通がついてきているみたいなんですよと、まあ彼はわたしに話したわけだけど、それは当然であるとわたしは考えている。なぜならば、一番初めの決意、二番目の精進、そして三番目の思念と、で四番目においては当然師というものは多くの人の心を観察し、それに対して配慮を配り、四無量心によって安らがさなければならないと。他人の心に興味を持ち、

観察し、安らがせようとするならば、当然他人の心の観察、これを智慧によって行なうはずである。ということは、他人の心のヴァイブレーションや、あるいは心の働きについて多くの理解をするポイントを得ることができるはずである。よって、この四如意足を自然に行なっているといわざるを得ない。

これは、他の天眼や、あるいは天耳通についても同じである。例えば、天眼、死生智、ね、どこへ生まれ、どこへ死ぬかということについても、経典をしっかりと記憶していれば、その人の行為やあるいは言葉等から、まず類推、そしてそこに集中をし続けるわけだから、その世界へ突っ込むと。それによって、その世界を理解することができるようになると。神通ですら身につくわけだから、この世の諸現象、例えば学力アップだとか、あるいは素晴らしい結婚だとか、あるいは現世的に大事業家になりたいだとかいうことは、お茶の子さいさいのはずである。それは、先程も述べた四つの如意足をしっかりと具足する——具足するというのは、備え付け足すという意味である——するならば、必ずや成功するはずである。

◉カルマを超越する真理

では一体、その考えるポイント、これをどこに置くのかと。例えば、巷に出回ってるいろんな本に置くのかと。それとも、真理に置くのかという、これは大きな選択となる。真理の教えは、わたしたちが最も到達しづらい解脱についての法が中心である。しかし、この解脱についての法というのは、別の言い方をすれば、カルマを超越する法ということができる。カルマを超越する法とは何かというと、これは要するに、わたしたちが例えば事業に失敗するだとか、あるいは勉学が進まないだとか、あるいは結婚がうまくいかないだとか、あるいは借金苦で苦しむだとかいう、いろんなわたしたちを制約するカルマ、これを超越するという意味である。

では、なぜ超越することができるのかと。それは先程も述べた、自分たちのカルマを構成している要素を正確に分析し、それを分解できるだけの、そこに設計図、つまり法が存在してるからである。ということは、真理を土台とし、しっかりと絶えず思索をし、目的意識を持ち、進めるならば、どんな現象でも好転可能

なはずである。

◉四如意足の達成をもたらす四預流支

では、その真理のデータをどのように入れたらいいのかと。そして、何をもって真理というのかと。これは最も大切なポイントである。

まず第一に、真理のデータとは何かと。これは、シヴァ大神の変化身（へんげしん）である、あるいは諸々の仏陀（ぶっだ）のすべての徳を表わしているグル、そしてその法、そしてその法に集う者に対して帰依をすること。なぜならば、この集団というものは多くの煩悩（ぼんのう）を滅尽してきてるからである。そして第二番目に、その法を、つまり真理を何度も何度も記憶するということ。これは、ただ単に『マハーヤーナ』を一回読み通すではなく、特に説法や経典については、十五回、二十回と記憶すると。そして、それをもとに、第三番目においては考えると。つまり、それをもとに考えるということは、既にもうこれは四つの如意足の中の観慧如意足と共通する部分が出てくるということである。そして、この考えたものを実際に実践すると。

いくら頭の中でいい考えが浮かんだとしても、それを実践できないとしたならば、それは大きなカルマの制約が、その心の働きと行為においてあるといわざるを得ない。よって、実践すると。

つまり、四預流支（しよるし）の実践こそは四如意足の達成をもたらし、わたしたちをこの現世において幸福にし、そして来世においても幸福にし、最終的には最高の享楽の世界であるアカニシタ天、色究竟天（しきくぎょうてん）へと転生し、そこで無限に近い期間、楽を享受し、後に無色界（むしきかい）に到達し、そしてそこでまた無限の間、平安の境地を味わい、最終的にはマハー・ニルヴァーナへと到達し、そこにおいてすべてのものから解放され、絶対的な自由・幸福・歓喜を得るのである。

これが原始仏教理論のすべてであり、そしてこの中に大乗仏教も含まれるし、あるいはタントラ仏教も含まれると。そして、今ここにいる皆さんは、その素晴らしい法を実践できる数少ない魂であることを自覚し、しっかりと四つの如意足、そして四預流支の実践をしていただきたいと思います。

一九九一年三月一日　金沢支部にて

第三話　間違いのない幸福を手にするために

「布施と持戒――その大いなる恩恵」

◉布施・奉仕――高い世界への唯一の道

一体、どのような修行を行なったら、わたしたちは幸福になり、どのような修行を行なったら、わたしたちは不幸になるのであろうか。

これについてね、面白い説話がある。それは、「サンユッタニカーヤ」の中にあるお経なんだけどもね――これはお釈迦様のお経なんだれども――昔、今から二千五百年前だね、仏陀釈迦牟尼の高弟にクマーラ・カッサパという人がいた。

そのクマーラ・カッサパが、ある都に行ったときね、そこを統治している、今でいう、司令官みたいな人だね、その人と論争が起きた。

その司令官は、現代人と同じように、死後の世界はないんだということを信じていた。ま、それに対してクマーラ・カッサパは、いろいろな比喩をもってそうではないよということを教え諭した。そして、最終的にはその司令官は、クマーラ・カッサパの教えに帰依し、そして布施を行なった。しかし、それは、もともとね、あまり質の良くないものの布施であったと。

で、その布施を任された部下は、そこで独り言を言った。

「わたしは来世、わたしの将軍とは一緒に転生しないだろうな。」

それを聞きとがめた将軍は、その部下を呼んだ。

「なぜお前はそういうことを言うんだ。」

「いや、将軍、それは簡単でございます。将軍は、今布施されているような物をお食べになるでしょうか。あるいは、お召しになるでしょうか。」

そうすると、将軍は答えた。

「いや、わたしはああいう物は食べないし、着ない。」

「では、どうして自分で食べないようなもの、あるいは着ないようなものを布

施するんですか。」
「ではお前は、お前の身分で、納得できるような布施ができるのか。」
「もちろんできます。」
そこでその部下はね、膨大な自分の財産をはたいて、膨大な供物を用意し、そして、あちこちの人に大いに布施をした。
それによって、その部下は天界へ生まれ変わった。そして、その将軍は、鬼神に生まれ変わったんだね——鬼神というのは鬼の神様と書いて、要するに、人食い鬼みたいなものなんだけどね——そういう逸話がある。
この説話はなかなか興味深い。なぜ興味深いんだろうか、ね。わたしたちが、本当に幸福になるためには、わたしたちの最も大切なものを布施する、あるいは奉仕をして、徳を積まなければならない。そして、それによってのみ、わたしたちは高い世界へ生まれ変わることができるんだということを表わしている、ね。

◉真理への帰依と実践——培われる真実の力

近ごろ、オウム真理教も大きくなってきて、いろいろなレベルの信徒さんがいらっしゃる。で、質問される。

「わたしは、入信して半年になるんですけども、一向に事態が好転しないんですよ。どうしてですか」

と。わたしは、その人にこういう質問をする。

「あなたは、大師（たいし）の指導、あるいはわたしの指導どおりの行法、あるいは功徳を積んでいますか。」

と。

「いや、それが積めないんですよ。」

「なぜ積めないのですか。時間がないのですか。」

「そうではありません。」

「なぜですか。」

「いや、何となく積めないんです。」

と、ね。

功徳というのは、教学の進んでいる人はよくわかるとおり、車にとってはガソリンみたいなものだよね。どうだ、これは。どんなにいい車があったとしても、ガソリンがなければ走ることはできない。そうでしょう。どうだ。そして、この信徒さんもね、そのガソリンを入れることを忘れて、「わたしの車が走らない、走らない」と言っていらっしゃるわけだ。

では一体、なぜ功徳を積むことができないのだろうか。これは、勇気なんだね。これは仏典にしろ、それからわたしの教えにしろそうだけど、自分自身が追い込まれたとき、自分自身が本当に苦しいとき、一体何に頼るのか。それは自分自身なのか、それとも真理なのか、それともね、正しくない一時逃れの法なのかということになると。

もし、自分自身だとするならば、自分を磨き上げるようなね、それまでの意志の訓練というものが必要である。もし、真理、あるいはグル、あるいは大師に対して帰依をするんだったら、普段からその実践を行ない、特に追い込まれたとき

にこそ言い付けを守り、実践するということが必要である。もし、正しくない法に帰依をするんだったならば、それは、そのときは仮に逃れることができたとしても、その後、より多くの苦しみが返ってくるよということを理解しなければならないと。

ところが、人間はそうではないんだね。例えば、今まで正しくない法を実践していて、一時的に恩恵を受け、その後ひどいことが返ってきたときにね、教団を恨む。自分自身の無智を恨むのではなくて、教団を恨む場合が多いと。

では一体、正しくない法というのは、何にたとえることができるのだろうか。これはヤクザにたとえることができる、ね。ヤクザというものは、一時的にお金を出してお願いをすれば、ねえ、必ずそれをかなえてくれる。しかしそこでね、ヤクザとの正しくない関係ができる。それによって、その後はもっと大きな苦しみに至ると、ね。

ところが、真理というものは、自力的な要素が強い。つまり、帰依をするときにはその帰依の印として、布施だとか、あるいは法施だとか、十の戒めを守ると

かいった教えを実践しなければならない。それは、なかなか大変である。しかし、真理というものがあなた方の心の中に根付いたならばね、いかなる魔でも、あるいはいかなる苦しみでも打ち破るだけの原動力を、あなた方に与えてくれる、ね。果たして、そのどの道を選ぶのか。

そして、これからの話はね、「わたしは真理の実践をしていくぞ。わたしは正しい法の実践をしていくぞ」と思っていらっしゃる方だけが、よく集中して聴けばよろしい。

◉最高の財施――真理への導き

わたしたちを幸福にしてくれるもの、それは六つの極限である。あるいは出家した場合は、八つの正しい道であるということができる。では、在家の中で幸福になるためには、一体何を実践すればいいのか。それは、三つの布施と、それから十の戒めであるということができる。

では、三つの布施とは何か。それは、まず財を施す財施である、安らぎを与え

る安心施である、真理を流布する法施である。

では、この財施は、一体どういう力があるんだ。財施には、三つの意味合いがある、ね。弱い順にいくならば、まず学校とか、あるいは保育園とか、あるいは病院とかいうものに布施をする。つまり、社会的な事業に布施をする場合であると。これは、現代においては真理の実践者などいないからね。例えば政治家だって、ね、例えば、今社会問題になっているリクルートでわかるとおり、ほとんどの大物政治家はそんな事件に巻き込まれている、ね。だから、その布施はそのオーナーの懐に入るか、あるいはその途中の経費として消えていってしまう。そして、例えば病院建設に役立ったとしても、それは真理を実践するための病院ではないから、結局利益を生むためのファンデーションになってしまうと。よって、この功徳というものは、その布施をした人が未来においてね、例えば病院の院長になるとか、あるいは学校の校長になるときにのみ、役に立つ布施であると。

では次に、現代ではね、アフリカ、あるいは東南アジアといったね、貧しい国々がある。そこで食べられないような人たちに布施をする場合は、一体どういう効

果があるんだと。日本の仏典はすごく曖昧だから、どんなものに対する布施も同じように扱っているけど、実際はそうではない。もし、外国の貧しい人に布施をするならば、あなた方がね、本当に未来において食うや食わずで困ったとき、必ずやだれかが、あなた方のおなかを満足させるようなね、手の差し延べ方をしてくれるだろう。

そして、一番目の布施の功徳に比べたら、二番目の布施はね、百倍、つまり一番目の布施を一とするならば、二番目の布施は百のね、効果があるといわれている。

そして、第三番目の布施は、真理に対する布施であると。これは大変難しい。真理というのは、六つの極限を説き、それから実際に実践している教え、あるいは団体を指す。あるいは、正なる八支の道を正しく行じている団体を指す。このようなものに対する布施はね、真理の流布に使われる。そして、多くの人の煩悩を除去するために、あるいは高い霊性に導くための布施であるから、これは財施の中でも最高の布施といわれている。

そしてこれは、二番目の布施の百倍の効果があるといわれている。ということは、初めの布施から比べるならば、一万の布施ということになるわけだ。

では、この恩恵とは、一体どのようなものがあるのだろうか。それは、あなた方をいろいろな角度から、未来において真理に導いてくれる、そういう恩恵である。そして、あなた方が人生において困ったとき、インスピレーションを与えたり、あるいはね、人の口を借りて正しい示唆を与えてくれるような結果が招かれると。よって、これが財施の中の最も大きな布施ということになる。

◉安心施、そして法施——もたらされる苦しみからの解放

次に二番目の安心施は、一体どういう効果があるのだろうかと。これは、あなた方が未来際において苦しんでいるとき、だれかがあなた方に安らぎを与えてくれる布施である。これにも三つある。

最も効果のない布施は、あなた方が実際苦しくなくてね、あなた方の周りの人に、適当に安らぎを与える場合である。第二番目の場合は、あなた方も少しは苦

しいんだけど、しかし、それよりももっともっと苦しんでいる人に対して安らぎを与える布施。そして三番目の布施は、あなた方が最も苦しんでいるとき、その状態で他に安らぎを与える布施である。

そしてこれは、初めの布施を十とするならば、二番目の布施は百であると、三番目の布施は、千の効果があるといわれている。それはなぜかというと、わたしたちが輪廻転生を繰り返すとき、その本質は心であるからだ。その心を豊かにする、成熟させるためにおいては、苦しければ苦しいほどその条件が整っていることになる。よって、自分たちが最も苦しいときの布施、これは最高の布施であるといわれている。

そして、三番目は法施である。これはね、真理の法施をする場合と、真理でないものを法施する場合がある。もし、真理でないものを法施するとするならば、それは未来において、あなた方が苦しんでいるとき、真理でないものの誘惑を受けることになるだろう。そして、正しくない道に入り、そして苦しみの世から逃れることができない。

もし、あなた方が真理の法施を徹底的に実践するならば、あらゆる角度からあなた方には、真理からの誘いがある。そしてそれによってね、いつの世か、あなた方は正しい悟り、あるいは成就といった状態に到達できるだろう。

これが、三つの布施である。

◉身の行ないの戒め——豊かで穏やかな生活のために

そして、十の戒めがある。

もし、生き物を殺さず、慈しむことができるなら、周りの人があなた方を好きになり、そしてあなた方も心穏やかになり、ね、そして長生きをする。で、未来において天界へ生まれ変わるだろう。

もし、あなた方が盗みをせず、人にものを施す布施の実践をするならば、いつしかあなた方は、物質的にね、豊かな人生を送ることができるようになるだろう。それは、なぜであろうか。貪(むさぼ)りのカルマというものは、わたしたちに必要のない出費をさせる。そして、貪りの心というものは、とめどない欲求をわたしたちに

起こさせる。得ても得ても足りない欲求を起こさせると。それによって、わたしたちは少ない財産を、あるいは少ないお金を使い果たしてしまう。そして、サラ金やあるいは銀行から借りて、わたしたちはどんどん自分たちの首をね、絞めてしまうと。その結果として、わたしたちは物質的に不自由になってしまう。

ところが、人のものを貪らず、盗まず、施す訓練をしていれば、足るを知るようになる。少しのもので満足するようになる。そして、実入りは一緒である。そして、その中の一部を、例えばきちんと布施をする。そうすることによって、心は豊かになると、ね。それだけではない。当然、使わないわけだから、経済的にも豊かになってきてね、本当に必要なとき、大切なときに自由に経済を働かせるようになる。あるいは、人に好かれるわけだから、物も集まってくる。これが、「盗まず施せ」という理論である。

三番目の邪淫（じゃいん）はどうだろうか。もし、結婚している者が、妻以外の女性、あるいは夫以外の男性と性的な交わりをしなかったならば、その人は別に、妻に対して、あるいは夫に対して後ろめたい心を持つ必要はない。よって、絶えず心は安

定した状態になる。そして、夫は妻だけを見、妻は夫だけを見るから、当然夫婦の仲は睦まじくなる。つまり、邪淫をしないだけで心は安らぎ、そして家庭も円満に収まる。これが、邪淫をしない効果である。

◉口・心の行ないの戒め——最高の安らぎを得るために

嘘をつかなければどうなるだろうか。この世界は、コーザル世界、アストラル世界、そしてこのグロス・ワールドね、現象界と三つに分かれている。そして、言葉というものはアストラル世界と関係があると。もし、わたしたちが絶えず嘘をつくならば、それはアストラル世界をけがす結果になる。それによって、この現象界で正しくない働きが生じ、そして結果的には何が真実で何が真実でないか、わたしたち自身見えなくなってしまう。

そして、もしわたしたちが嘘を実践しなかったならば、嘘というものを排斥したならば、アストラル世界のデータとこの現象界のデータは同一になる。そして、わたしたちの言ったことが現象化すると、ね。このような形で、綺語ね、それか

ら悪口ね、そして両舌ね、そして貪り、嫌悪、そして無智といったものをね、わたしたちが完全に克服しきり、必要のない言葉を語らず、人に哀れみのある言葉を語り、悪口を言わず、決して仲たがいさせるような言葉を語らず、人と人とを和合させるような言葉を語る。そして、心には貪りを持たず、絶えず施す心を養う。心には、嫌悪する気持ちを持たず、絶えずすべての人の魂の成長を願う。そして、真理のみを淡々と見つめると。このようになったならば、わたしたちは最高の安らぎ、最高の幸福というものを手中に収めることができるだろう。

今日は時間がないから、全部は説明できないけども、最後にね、もし綺語をなさなかったならば、どのようになるであろうかと。必要以上の言葉を語らず、実践的な人だから、当然目上の引き立てにあうだろう。そして、周りもその人を信用するようになる。もし、悪口を言わず、ね、絶えず相手のいいところを見つけ、誉め称える訓練をするならば、すべての人から好かれるようになるだろう。そして、尊敬を集めるようになる。もし、仲たがいさせる言葉を語らず、和合させる言葉を語るならば、友がたくさんできるだろう。しかも、正しい友がたくさんで

きるであろう。もし、完全に貪りを滅却するならば、すべての物質的願望がかなうだろう。もし、嫌悪の念を捨て切るならば、嫌悪から生じる怒りの念を捨て切るならば、間違いなく天界へ生まれ変わるだろう。もし、無智を否定し、真理の実践を行なうならば、いつしか最終的な悟りに到達するだろう。

このようにわたしたちは、簡単なね、三つの布施、十の戒めを実践することによって、大いに恩恵を受けることができるんだ。それをなすなさないは、あなた方次第である。

はい、では今日の説法を終わります。

一九八九年四月十六日　札幌支部にて

第四話　現実を正しく見つめ、成功へ導く

「最高の秘儀――四預流支」

◉大発展の年の暗示

一九九一年の一月は、まあオウム真理教にとって有意義な月であったといえます。それはなぜかというと、この社会的逆風の中、最盛期の入信数の約半分、二百六十五名の入信者があったということです。そして、この中の二百六十名は、本人が自覚したしっかりとした信徒であるということ。つまり、またオウム真理教の教勢が拡大の方向に向かったなということを如実に表わした月だと思います。

もともと人間の持っている情報というものは、無常を根本としています。そして、確信のないこの現代にとって、マスコミの入れる情報もそうだし、あるいは

行政の入れる情報もそうだし、すべてが信じられない情報であると。しかし、その情報の量によってその人たちは自然とそのデータに左右され、苦しまなければならない状況が訪れているんだと思います。

この二百六十名の——わたしが二百六十名と言ってるのは、要するに本人が自覚して入信した信徒数の数だけども——この二百六十名が達成できたということは、今年一九九一年はオウム真理教にとって大発展の年の暗示をしてるなというのがわたしの実感です。

◉救済の要の教団——オウム真理教

では一体、なぜこの逆風の中信徒が急に増えたのかということになると思います。これは、一般人生を歩く上においてもそうだし、あるいは事業をなす場合もそうだけども、これからわたしの話すことをしっかりと理解していただければ、あなた方にとって大きな利益が待ってるはずです。

もともと救済というものは、あるいは事業でも構いませんが、発展させる要素

はそんなに多くのポイントがあるわけではない。まず、そこに務めてる人がどれほど熱心にその会社のことを思っているか。そして、務めてる人、一人一人のキャパシティ、つまり能力がどの程度のものであるか。次は、その会社の営業内容について正確にアピールできる、つまり営業の部門がどの程度充実してるか。そして最後に、出す商品がどの程度しっかりしたものであるかということがポイントとなると思います。

これをオウム真理教に当てはめるとどうなるかというと、まず、弟子たちがどの程度オウム真理教に対して愛を持っているかと。そして、救済に対して意識ができてるかということ。第二番目は、弟子たちのステージがどの程度のものであるか。つまり、他教団の布教なさってる方々と比較してどちらの方が高い霊性、および心の成熟をなしているかということ。そして、第三番目は、その教義というものはどういうものであるか。その教義は、しっかりしてるかどうかということ。そして、この教義を流布する人たちがしっかりした意識付けを持ち、その商品に対してアピールできるかということになると思います。

これら四つのポイントをチェックするならば、まず第一の教団に対する愛、および布教に対する確信というものは、まあクンダリニー・ヨーガの成就者を中心として十分に持ち合わせていますから、当然法を展開する段階において、その法を広げるにあたっては、全く障害がないということがいえると思います。

そして、第二番目のステージについても、これは、五カ月、六カ月、十カ月といった長い間の集中修行、一日二十時間に及ぶ修行をこなしている弟子たちですから、その精神力、および霊的体験というものは、それは大変なものであるということができるでしょう。

第三番目は、わたし、先程間違ったけどね、それを流布するプロパガンダはどうなってるかと。これについても、しっかりと四無量心の瞑想を行ない、すべての衆生を済度することが救済の意味合いであり、それを実践することが弟子の役割であるということを認識している弟子たち、そして信徒の皆さんの二人三脚の協力により、これだけの結果が得られたんだと思います。

そして、第四番目のオウム真理教の持っている法、この法は、原始仏典、まあ

AUM

今パーリ三蔵といわれている原始仏典を土台とし、それにチベット仏教を味付けし、そして密教的ヨーガの飾りを付けたという世界でも類を見ない最高の修行体系。そして、その本質には死を超越する、三界をすべて理解できる修行システムが組まれてるわけですから、商品という点に関しても、これはいかなる宇宙のどの部分から攻められても、もちろん地球、あるいは日本の他の教団がそれを攻めようとしても、攻め落とすことのできない金城鉄壁の城だといわざるを得ません。

皆さんもご存じのとおり、マスコミのオウム真理教叩きの内容を見て、教義に触れてる部分があるかといったら、全くそれはありません。ということは、これから先、これだけの発展が一月になされたわけですが、二月、三月とどうなっていくのかと。当然、弟子たちの修行、それから信徒の皆さんに対する四つの預流支の徹底。これを布教し、皆さんの心の平安、そして功徳の充実というものを図れば、オウム真理教が救済の要の教団とし、世界最高の宗教となり、そしてすべての魂の苦悩を取り除くことのできる唯一の宗教へと発展していくことは疑いないでしょう。

◉何をなせば幸福になるのか

わたしがなぜ、営業、あるいは仕事、あるいは商品という言葉をここで使ったかというと、皆さんに宗教という言葉を使うより、この一般的な言葉を使った方がわかりやすいと考えたからです。

ではここで、いい経営、そして悪い経営といったものを少し述べてみましょう。いい経営の仕方というものは何かというと、いかなる外的情報にも左右されず、自己の信念を貫き通し、そしてしっかりとした商品を出すと。そして、社員を信じ、社員教育を充実させ、愛社精神を持たせ、会社、そして一人一人が豊かになるという運営を行なうと。

では、悪い経営は何かというと、情報に翻弄され、情報に流され、舵取りを誤り、そして社員教育をしないと。こういった形のようなものになります。そして、上がってきた利益は、当然経営主体の、まあ株主、あるいは社長が独占すると。この前者と後者では、五年後、十年後、二十年後、五十年後には、大きな違いが出てくるはずです。

わたしは皆さんに、何をなせば幸福になるのか、あるいは何をなせば不幸になるのかを説かなければならないと考えています。まず皆さんが幸福になる道、それは先程も述べた四つの預流支である。この四つの預流支とは何かというと、まずグル、あるいは仏陀、シヴァ大神という根本的な魂に対して信を持ち、そして布施、奉仕の実践、これを行なうと。これを帰依といいます。第二は、真理に対して、このグルの説く法、仏陀、諸々の仏陀の説く法に対して、あるいはシヴァ大神のお残しになった法に対して、その法を学び、そして流布するということ。そして、三番目は、この真理を実践している者たちに対して、奉仕、あるいは布施の実践を行なうと。まあ、オウム真理教でいうならば、それは教団に対する奉仕、あるいは布施ということになるでしょう。これが第一の預流支であると。

そして、第二の預流支は、ひたすら真理を学び、その真理を記憶修習する。記憶修習するとは何かというと、例えば四つの預流支という、まあ皆さんに送られた「預流相応」というのがあります。この「預流相応」を一回サッと読むのではなく、一日二回、三回と読み、それを毎日毎日続けると。そうすると、そのデー

タが深い深い意識に到達し、無意識のうちに身・口・意の行為がこの預流の実践へと導かれるようになるわけです。これが第二番目の預流支です。

そして、第三番目の預流支、それは、その記憶修習したデータをもとに、自己の身・口・意に併せて検討を加えると。果たして、わたしのこの行為は真理にかなってるんだろうかと。この言葉は真理にかなってるんだろうかと。この心の働きは真理にかなってるんだろうかと。ということは、本を読みながらでは考えることはできませんから、しっかりしたデータのもと、その検討に入るということが大切です。

そして、この検討に入った身・口・意の三つの行、サンスカーラに対して最後は実践を行なうと。あれっ、おかしいぞと。なぜおかしいかというと、身・口・意、例えば、殺生、偸盗、邪淫を離れると。例えば、妄語、綺語、悪口、両舌を離れると。例えば、二正勤二正断を行なうと。七覚支を行なうと。そして、禅定を行ない、ん、これは、そうです。四預流支の第四番目は、真理によって作意したものを実践する、つまり聖なる八支の実践を行なうことです。これが、

四預流支なのです。

◉最高の教え——四預流支

そして、この四預流支を皆さんが実践することによって、皆さんの口のけがれ、心のけがれ、身のけがれが浄化されます。浄化されることによって、すべてが見えてきます。それにより、結婚して家庭生活を営んでいる人は、そのレベルでどうしたら自分自身が幸福になれるか、あるいは周りを幸福にすることができるかが理解できます。あるいは、自営業を営んでいる人は、どうしたらもっとお客さんに喜ばれ、そして自分自身が幸福になることができるか、あるいは自営業を発展させることができるかが、おのずと理解できます。

事業を営んでる人は、一人一人の行為を理解する前に、まず自分自身の身・口・意の行為を理解できるわけですから、当然社員の身・口・意の行為を理解でき、こいつは自分にとって、要するに自分を愛しとると。自分についてきとると。こいつはそうじゃないと。じゃあ、こいつをこういうふうな形にして鍛えていけば

もっと会社は発展するといったような、正しいものの見方ができるようになるわけです。つまり、この四つの預流支というものは、宗教上の最終地点へ到達する道だけではなく、この現実の世界において、ものを正しく見つめ、成功させる最高の秘儀ということもできるわけです。

もちろん、この現実の生活、これよりもっと大切なもの、それは死を超えるということがあります。つまり、人は死ぬ、必ず死ぬ、絶対死ぬ、死は避けらんない。どんなにこの世で大金持ちになろうとも、事業を成功させようとも、愛し合おうとも、死という、その死の境目によって苦しまなければならないという事実があります。この四つの預流支は、その死を超越する道、そして現実生活をより良く生きる道、その二つを表わしてる最高の教えだといわざるを得ません。

◉八正道の背景には

よく日本では、八正道（はっしょうどう）という言葉が使われます。この八正道という言葉が使われる背景には、本来はこの四つの預流支が存在していなければいけない。しか

し、この四つの預流支は全く説かれません。そして、いきなり正見、正思惟、正語、正業、正命、正精進、正念、正定といった、何だかわからない漢語的な言葉が並びます。

実際は先程も言ったとおり、まずひたすら真理のデータを入れ、記憶修習し、その次の段階で、自己の身・口・意について十分に考えると。思索すると。まあ、これが正見解、正思惟になるわけだけどね。そして、四つの悪業、つまり妄語、綺語、悪口、両舌という四つの口の悪業を語らないと。そして、殺生、偸盗、邪淫を離れるという正行為の実践を行なうと。そして、七覚支の実践、つまり、正記憶修習から無頓着の修行に至るまでの七つの七覚支の実践を行なうと。これが、正生活ですね。そして、今なしている善業を増大させ、今まだできないけども未来によってもっと大きな善業を積もうといつも考えてると。あるいは、今なしている悪業をやめ、未来において生じるかもしれない悪業の根を断ち切ると。という二正勤二正断というものがきます。そして、最終的にはサマディに入るまでの、この無常を徹底的に記憶修習によって叩き込むと。そして、最終的にはサマディ

へと入り、解脱をすると。

ところが、そういう説明を一切せず、八正道という言葉がポンと浮いてくるわけです。これと同じように、現実の言葉、この言葉に翻弄されると、わたしたちは苦しまなければならない。その裏側にある実態を理解するためにはどうしたらいいかというと、先程も述べたとおり、しっかりと三宝に対して帰依をなし、教学をなし、そして考え、実践すると。この四つをなしてください。これをなすことにより、今皆さんの置かれているあらゆる立場において、大きな利益を与えることでしょう。

一九九一年二月一日　金沢支部にて

第五話　集中――徳の流れを制御せよ！

「ひたすら教学、布施・持戒」

◉不動心の大切さ

皆さんもご存じのとおり、イラク対多国籍軍の戦争が始まりました。この広島は一九四五年、つまり昭和二十年に原爆という大変つらい洗礼を受けた土地です。今、正義という名のもとに、多国籍軍はイラクに対して七千回とも八千回ともいわれる空爆を繰り返しています。そして、この行為は、いずれ第三次世界大戦へと引金を引く結果となることでしょう。

いかなる状況にあろうとも決して心を乱さないこと。それを不動心といいます。そして、この不動心はその心を培い、得ている者とそうでない者とでは、生まれ

変わり、つまり輪廻転生の行き先が違うといわれています。もちろん不動心だけが、来世を決定するわけではありません。その前に多くの要素があります。それは例えば、大いに功徳を積む。あるいは禁欲的な生活、つまり持戒を守って生活する、あるいは瞑想を行なう等です。そして、その生で培ったそういうものを生かせるか生かせないかが、不動心にかかっているわけです。

一九九〇年代は大いに揺れ動くはずです。そして、その手始めとしてイラク、多国籍軍の戦争が始まりました。そして、ソビエトでも内政における弾圧が強化されています。わたしたちの寿命というものは、こういう外的条件により、いつなくなるかわかりません。

人は必ず死ぬ。絶対死ぬ。死は避けらんない。これがわたしの最も日々考えている言葉です。そして、いかなる条件であろうともきちんと素晴らしい世界へ、高い世界へ転生していただくこと、これが、わたしとそしてオウム真理教の役割だと考えています。

◉平安な心の獲得

では一体、何をどのようにすれば効果的な人生を送ることができ、そして次の生、平安で幸福な世界へと転生することができるのでしょうか。

これは先程も述べた、まず功徳を積むこと。この功徳にはいろいろな功徳があります。例えば、財施を行なうこと。例えば、法施を行ない、多くの人に真理を知っていただくこと。そして、入信に導き、縁のある人と共に来世高い世界へ生まれ変わるように努力すること。あるいは、心の苦しみを持っている人のそばに行き、その苦しみを軽減するように努めること等が挙げられると思います。

そして、この教えは三宝によって説かれたものであると。ここでいう三宝とは、仏陀、仏陀の化身としてのグル、あるいはその根本神であるシヴァ大神と。この三身に帰依をすること。そして、その法、グルの説く真理に対して帰依をするということ。そして、真理を実践している集いに対して帰依をするということ。これが三宝に対する帰依です。では帰依とは一体何かというと、この三宝に対して奉仕をしたり、あるいは布施をしたり、あるいは教えを広めたりすること。ここ

でわたしが、法施と教えを広めるという二つのカテゴリーをお話しした理由は、法施とはその教義の載っている書籍等を多くの人に読んでいただくということ、教えを広めるとは自分で理解した教えを周りに広めること、という意味です。

そしてこれら三つの、三身に対する帰依ができ上がったならば、次は生き物を慈しむ、生き物を殺さないで慈しむという実践に入ります。この生き物を慈しむ延長上に戦争放棄があります。そして、この生き物を慈しみ、生き物を殺さないという第四の実践をなした後、第五の実践である、人に物を施し、盗まないという実践を行ないます。そして第六の実践として、愛のない性的交わりをやめ、いかなる人とも心から和合するという実践に入ります。

この三つの身体の正しい行ないができるようになった段階で、次は言葉の統御へと入っていきます。それは嘘、必要のない言葉、仲たがいさせる言葉、悪口といったようなものをやめ、愛をもってすべての人に優しく語るという実践に入ります。そしてここまで達成した者は、次は心を乱すお酒をやめ、あるいはタバコをやめ、絶えず安定した、平安な心地を経験するということになります。

◉魂は輪廻する

輪廻転生はどのようにしたら証明できるのかという話に対して、わたしは次のように説明をします。それは、死ぬ前に来世の条件はでき上がっているんだよって。

では来世の条件とは何かというと、例えば、体全体が痛い痛い痛いと言いながら死んでいく人、この死んでいく人に対して、例えば霊能者が、「あの人は来世は天界へ生まれ変わります」と言ってもそれは大嘘であると。なぜならば、その人には痛みしか存在しない。ということは、来世は地獄であると言えます。

例えば、死ぬ間際になり、ものを考えることができず、記憶力がなくなり、ぼけてしまうと。このような魂は次の生は動物へと生まれ変わります。

では、物が食べたいのに食べられなくて死んでいくと。あるいは、物を口の中に入れると、胃酸が強く出て焼けるようになると。このような魂はどこへ転生するのかと。これは当然、餓鬼の世界へ転生することになります。

では、妻に愛着し、子供に愛着し、そして自分自身の人生に愛着し、心を残し

死んでいく者、これはどこへ転生するのかと。これは人間の世界へ転生するようになります。

では、先程述べた四つの条件、つまり肉体的、精神的苦痛がなく、そして意識がはっきりとしていると。そして普通に食べ、飲み、この世に対して執着もないと。しかし、権力に対する執着だけが残っていると。このような魂は、次の生では憤怒天、阿修羅の世界へと転生します。

そして、その権力もなく歓喜の状態で輪廻転生する魂は、次の生、戯忘天界へと転生します。そして、これらの六つの条件を超え、貪りを離れ、出家し、そして真理の実践だけを行なった者は、色界へ転生し、梵天界以上の永遠に近い、長い生を経験することになります。

◉願望を成就するには

「でも、麻原」と。「わたしたちが必要としているのは、来世ではない」と。「この世だ」と。「この世を一体どのようにしたら幸福に経験できるんだ」と。そ

れに対しては、まずひたすら教学をし、そして布施の功徳の実践、持戒を守ることをお勧めします。そして、自分自身の目的、例えば素晴らしい恋人と出会い結婚したい、例えば今生平安に生きたい、あるいはお金持ちになりたいといったようないろいろな願望に対する集中、一点に対する集中をなせば、必ずやその功徳のエネルギーは願望した方向へと流れ、結果を招くこととなるでしょう。徳の流れを制御し、そして一つの方向に向け、結果を出すこと。これは来月号の『マハーヤーナ』にもね、おそらく『南伝大蔵経』の翻訳として載ってると思いますが、そういうお経があります。

そして、これはわたし自身、あるいはわたしの弟子たち自身が経験している体験です。ですから皆さんも大いに徳をお積みになり、持戒を守られ、心を豊かにし、一つの方向に意識を集中し、結果を出し、この世を満喫し、そして来世幸福な転生をしてください。いくらいい車が用意されていたとしても、その中にガソリンを入れなければ走りません。それと同じで、いくらいい環境にあったとしても、功徳を積まなければそれから発展することはありません。

人は死ぬ。必ず死ぬ。絶対死ぬ。死は避けらんない。しかし、死は来てもいいんだと。なぜならばそれまでに十分に準備していれば、逆に死というものは大変「楽しみの瞬間」ということになります。そして、その死の内容については、深い深い瞑想を経験することにより、多くの体験をすることとなるでしょう。

一九九一年一月二十二日　広島支部にて

健康篇

◎今までの生活が嘘のよう

池田昌展

わたしは、オウムに入信する前は、非常にストレスがたまりやすく、吹き出物が出たり、体がけだるい状態でした。そういった状態を酒やコーヒーでごまかそうとしていたため、さらに体調を崩してしまっていました。

健康的な生活を送りたいとは思っていましたが、悪くて当たり前のような感じにもなっていました。

ところが、オウムに入信し、修行を行なうようになってからは、酒は一切必要とせず、毎日飲んでいたコーヒーもほとんど飲まなくなりました。体重も七キロも減ってしまったのには驚きでした。

今では、あんな不健康な生活がよく送れていたのもだと不思議な気持ちがする今日このごろです。

◎痩せすぎも解消！

平澤　収

オウムで修行を始めて、痩せすぎだったわたしも、六カ月ぐらいで一気に十キロぐらい増えて、中肉中背になることができました。それからはどんどん太るということもなく、体重は安定して非常にいい状態です。

以前だったら熱が出てきそうな状態で、無理をして会社に行っても、それでも回復は早くなったような気がします。

こんな願いがかないました！

◎あのアレルギー性鼻炎が……

篠原　理

わたしは、小学校二年ぐらいからアレルギー性鼻炎で、両鼻が〝完璧に〟といえるくらいに詰まっていました。さらに調子の悪いときには、鼻水が大量に出て、一日でテッシュペーパー一箱を使い切ったこともあります。病院にも何度も通ったのですが、高いお金と時間を無駄にしただけでした。

いつもどうにかならないものかと思っていましたが、オウムに入り、浄化法を実践したところ、十数年間悩んでいた鼻水・鼻詰まりがあっさり治ってしまったのです。

◎体が軽やかに

森岡　純

入信したころ、七二～七五キログらいあった体重が、修行や浄化法をすることによって六一～六二キログらいになり、体が軽やかになった。

風邪もひかなくなり、周囲の人が流感などで苦しんでいても、いっこうに平気になった。また、酒やタバコも不要になった。

出家後は、歳（四十代）の割には、徹夜が続くようなワークがあっても、体力が維持できるようになった。

健康篇

◎子供のころのように

湯本文彦

わたしは、高校時代にクラブ活動で肝臓を壊し、それが原因で体力がなくなり、食欲もなく無気力になってしまいました。そして、このことが心にも影響を与え、精気がなく老人のようになってしまいました。

子供のころのエネルギッシュで疲れも知らず、心もいつも明るかった状態に戻りたいと願っていたところオウムに巡り合い、入信しました。

オウムで修行を始めると、みるみる健康が回復し、いつの間にか子供のころのように生命力に満ちあふれた自分になっていることに気付きました。そして出家後は、それにも増して疲れ知らずの体になっています。

◎腎臓病も克服！

砂押光朗

わたしは、高校二年のころから腎臓が悪くなり、高三の夏にはとうとう入院までしてしまいました。それによって、スポーツや食事など制限のある生活を強いられ、人生の大部分を失ったかのような気持ちになりました。

昔のように活動的になりたいと思っていたところ、大学二年の五月、友人がオウムに導いてくれました。入信後、奉仕活動を行なっていると、心がどんどん明るくなっていき、気が付くと体も全く良くなっていました。

こんな願いがかないました！

◎リューマチがいつの間にか

ダンマサヴァ

ある日突然、強烈な痺れが右腕に走り、日ごとにその痺れはひどい痛みに変わり、左腕にも広がっていきました。

こんなつらさと一生付き合うのかと思っていたところ、オウムに巡り合いました。修行を真面目にやった方ではないのですが、体の調子が良くなり、仕事をしても疲れなくなりました。

そして、ついにはあの痛みもなくなってしまったのです。オウムにはリューマチのための行法もあるのですが、わたしは普通の修行で治ってしまいました。

◎浄化法、そして財施の効果

手呂内宗哲

浄化法により、ガリガリだったのが七キロも太れて、体も丈夫になり、長年悩まされていたしもやけにもならなくなりました。

信徒時代、会社勤めで忙しい毎日を送っていたのですが、あるとき運転免許を取るために教習所に通っていました。そして、いかに速やかに試験にパスするかを考え、布施の功徳を期待して試験の前には必ず財施をしていました。

そのかいあって、週末にしか教習所に行けなかったにもかかわらず、すんなりと試験にパスし、免許を取得することができました。

第二章　幸福はあなたのもとへ

第一話　安定した心、思いどおりの日々

「十戒が幸福をもたらすのは」

現世的に幸福になるためにはどのようにしたらいいと思うか、君たちは。まず、幸福の定義というものは大変難しいよね。しかし、ここでは幸福の定義というものをこのように定めよう。まず、日ごろの心の状態が安定して穏やかであると。そして、自分を取り巻く環境が、ね、自分にとってプラスに働いている。そして、自分の思っている生き方ができると。そして、最後にね、オウム独特の付け加え、しかもそれはすべての魂のためになっていると。この条件を備えている生き方、これを幸福と定義しようじゃないか。どうだ。

すると、次のことが出てくるね。まず、いくら物質的な豊かさがその人にあっ

たとしてもだ、その人の貪りのカルマが強ければ、どうだこれは、その人の心は絶えず迷っているよね。わかるな、これは。だから、まず貪りを捨てる訓練をしなければならない。そのためには何がいいんだ、一番。

（弟子） お布施です。

布施だ。そのとおりだ。

次に、心を惑わすものというのは何があるんだ。十悪だな。殺生、ね、生き物を殺すときわたしたちの心は暖かくなっているか冷たくなっているか。

（弟子） 冷たくなっています。

冷たくなっているから、殺生をまず離れなければならない。偸盗、盗みを働くとき、わたしたちの心はすさんでいるか、それとも豊かか。

（弟子） すさんでいます。

すさんでいるね。そして、愛のないセックス、あるいは、ね、心に後ろめたさを残すセックスについてはどうだ、そのとき快楽はあるかもしれないけども、ね、心は喜んでいるか喜んでいないか。

（弟子）喜んでいませんよね。そして、わたしたちが嘘をつくとき、ね、ああわたしは嘘をついて幸せだと感じるか、それともしまったと思うか。

（弟子）しまったと思います。

しまったと思うわけだね。必要のない言葉を語っているとき、ね、わたしたちの心は集中していると思うかしてないと思うか。

（弟子）集中していません。

ということは、集中してないということはタマスになるか——タマスというのは、つまり混沌（こんとん）とした意識状態になるか、それともはっきりした意識状態になるか。

（弟子）混沌とした意識状態。

混沌とした意識状態になる。そうだね。悪口を言うとき、ね、心は穏やかな状態で悪口を言ってると思うか言ってないと思うか。

（弟子）穏やかではないです。

穏やかな状態ではない。だから、当然悪口を離れなきゃなんないと。では、人と

人とを仲たがいさせようとする、ね、心の働きというものは、ばれたらどうしよう、ね、発覚したらどうしようという心があると思うかないと思うか。

（弟子） あると思います。

あるよね。だから、それは離れなきゃなんないと。

そして、心の働きとして貪れば貪るほど、いくらものがあっても、ね、あるいはいくら性欲があっても、いくら食欲があっても、ね、喜びとはならないよね。どうだ。

（弟子） なりません。

だから、貪りから離れなければならない。そして、嫌悪から生じる怒りというものは、他との間に憎しみが生じる。それだけではなくて、どうだ、自己の心においても、ね、当然心のけがれになるし、そして身体的にも熱が出てくるよね、これは。どうだ。

（弟子） 出てきます。

だから、憎しみからくる怒りを離れなければならない。そして、わたしたちがも

し真理というものを知らなければ、わたしたちに本当の幸福はあると思うか。

（弟子） ありません。

ね。だから、真理を否定しないこと、つまり無智から解放されること。

この十の戒め、十の悪い行ないを、悪い身・口・意の働きをもし滅するならばだ、そしてその財施が、あるいは法施が、ね、あるいは安心施が、真理に向かうものであるならば、その人の心、あるいは環境というものは良くなると思うか悪くなると思うか。

（弟子） 良くなります。

そして、その終局に幸福があるよね。どうだ。

（弟子） あります。

仏陀釈迦牟尼は、こう言ってらっしゃる。布施をなしなさい。そして、持戒を守りなさいと、ね。そうすることが天界へ至る道であると、ね。

一九八八年十二月十三日　富士山総本部にて

第二話　他の苦しみを思いやれてこそ

「利他の心が生む幸福」

◉大乗の発願――四無量心をベースに

まずね、オウムのベースはマハーヤーナ、大乗です。そのためにここに集っている方が、今生あるいは未来生において真の救済者、あるいは大乗の仏陀（ぶっだ）になられるために、初めに「大乗の発願（はつがん）」を十三回、そして、大乗仏陀イニシエーションの中の「苦の詞章」を十三章唱えることにしましょう。

大乗の発願を知らない方もたくさんいらっしゃるだろうから、まずわたしが音頭を取りますので、一緒に唱えてください。

「ホー、湖面に映る虚像のような

さまざまな幻影に引きずられ
輪廻の大海を浮沈する生き物たち
彼らすべてが絶対自由・絶対幸福なる
マハーヤーナにて安住することができるよう
四無量心込めて
大乗の発願をいたします」

これはね、「ホー」というのは呼びかけ。ホーリーな、神聖なヴァイブレーションなんだね、これは。「湖面に映る虚像のような……」というのは、湖の滑らかな面に、透明な面に映る影のような、さまざまな幻影によって、わたしたち、あるいはわたしたちの周りの人は苦しんでいる。その苦しみから解放されるのは、ラージャ・ヨーガ、クンダリニー・ヨーガ、ジュニアーナ・ヨーガ、あるいはラージャ・ヨーガ、クンダリニー・ヨーガ、マハー・ムドラーという三つのヨーガを終わって、マハーヤーナのヨーガ、大乗のヨーガに入ったときである。そのとき、わたしたちは本当の意味で、他の苦しみに対してそれを取り除いてあげられるよ

うになっている。

そして、すべての人が、そのステージに到達できますようにと、平等心、相手を慈しむこと、そして相手の苦しみを、あるいは相手の悲しみを一緒に感じてあげて相手の苦しみを半減させること、そして相手のすべての善行に対して誉め称えるという、四つの素晴らしい、最高の心というものを供養する。そして、大乗の発願をすることによって、すべての人たちが絶対的な自由、幸福、歓喜という、マハーヤーナに入れますようにというのが今の詞章の意味合いです。

◉大乗仏陀イニシエーション――すべての苦を内在するために

そしてね、もう一つ、これはオウムのシッシャに唱和が義務付けられている「大乗仏陀イニシエーション」というのがある。これは何かというとね、「自己の苦しみを喜びとし、他の苦しみを自己の苦しみとする」という素晴らしい教えなんだけども、それをここでね、皆さんと一緒に十三回唱えましょう。まず、音頭を取ります。

「自己の苦しみを喜びとし、他の苦しみを自己の苦しみとする」

意味がちょっとわかりづらいかもしれないけど、唱えているうちに、意味を考えているうちに、この深遠な教えというものが、仏陀釈迦牟尼のお説きになった最高の教えであることに気付くはずです。この意味合いというものを説明すると、修行が進んでくると、他の人の苦しみに対する許容量に比べて、修行者の苦しみに対する許容量というものは、どんどんどんどん大きくなっていくわけだね。そして、すべての人の苦悩が自己の内側に内在されたとき、そのとき本当の意味での大乗の救済者となれるということなんだよ。

それはなぜかというと、自己の苦しみが幻影であることに気付いた者にとって、他の苦しみをどれだけしょったとしても、その苦しみそのものが幻影なんだね。例えば、仏陀釈迦牟尼の最期の瞬間は、君たちも知っているよね。ものすごい腹痛を起こされて、下痢になられて、そして入滅なさったと。しかし、現代の宗教家たちはその意味合いがわからないよね。よくこういう質問を受ける。「なぜ、仏陀釈迦牟尼ほどの人がそういう下痢によって、あるいは病気によって、あるい

は食あたりによって死ぬのか」と、ね。

しかし、これは小乗的な考え方を基本としているからこのような問題が出てくるんだね。本当は仏陀釈迦牟尼は三乗――ヒナヤーナ、マハーヤーナ、そしてタントラ・ヴァジラヤーナ、つまり、小乗、大乗、真言秘密金剛乗という三つの乗を修めていらっしゃったわけだ。そして、この話は、釈迦牟尼が大乗の修行をしていらっしゃったことの一つの証明といえると思うんだよ。釈迦牟尼がいろんな弟子たちにイニシエーションを与え、いろんな信徒の苦悩を取り除いたわけだけども、その苦悩というものは消滅したわけではないんだね。この現象界における苦の総量は一定だから、当然その苦悩のデータというものは、釈迦牟尼の中に内在して釈迦牟尼は入滅することになる。だから、釈迦牟尼の末期がだよ、心は全く苦しまない状態で、肉体が苦しい状態で入滅なさったということは、仏陀釈迦牟尼が本当の意味で大乗の如来（にょらい）だったんだなという確信を得る根拠になっていると考えているんです。

◉本当の幸福——愛に満ちた心の中に

現代の仏教だけではなく、いろんな宗教というものはね、自己の喜びだけを求めるために展開しているように見える。もちろん、自分が幸福でなければ、他の幸福というものはなかなか思いやることはできない。しかしね、ここでよく考えなければならないのは、一体幸福とは何なんだろうかということなんだよ。例えば、お金持ちになることが幸福なのかなと。例えば、立身出世をすることが幸福なのかなと。もちろん、お金持ちになり、立身出世をし、あるいは素敵な恋人と結婚をし、あるいはいい大学に通りと。これは確かに個人的には、瞬間的には幸福かもしれない。

しかし、わたしはそれよりもっともっと幸福なことがあるよと言いたい。それは何かというとね、生きている間、あなた方自身の周りにあなた方を本当に理解し、あなた方が本当に苦しんだとき一緒に苦しんでくれてね、そしてあなた方がうれしいとき一緒に喜んでくれる。こういう人たちがたくさんいることじゃないかな。そして、それは現代のわたしたちが忘れがちな、親であり、兄弟であり、

妻であり、あるいは友人なんじゃないかなと思うんだ。

ではね、なぜ現代は、確かに妻はいる、子供はいる、夫はいる、あるいは両親はいる、あるいは友人はいるといってもだよ、打ち解けられなくなってきたんだろうね。これはね、一言でいうならば、物質、あるいは外的なものに、あまりにもわたしたちが重きを置きすぎて、本当のわたしたちの内側にある安らぎ、幸福といったものに目を向けなくなったからじゃないかと考えるんだ。

そしてね、それは、例えばオウムの大師をはじめとするシッシャがよく示していると思うんだね。もちろん彼らだって、たくさんの情は持っているよね。しかし彼らはその情、自分たちの喜びというものをグルとシヴァ神に捧げ、そして多くの人たちの苦悩を取り除くために、二十四時間修行に励んでいるんだ。そして、北陸にはね、例えば、Oさん、あるいはMさん、ね、あるいは今日わたしにレイをかけてくれた信徒の方ね、あるいはAさん、こういうもう既に菩薩の道をね、歩き出している方がたくさんいらっしゃる。こういった多くの人たちが本当の幸福というものを自己の内側に見いだし、実践しているんだね。

そして、わたしはこの北陸の地、この金沢というものとすごく縁を感じているんです。実際、まだ信徒数は少ないけども、その少ない信徒の中からわたしの直弟子になり、そして二十四時間の奉仕修行あるいは瞑想修行に入っている方がたくさんいるんだね、この地には。

もしだよ、わたしたちがわたしたちの本当の喜びを求めるとするならば、次の、仏陀釈迦牟尼とマッリカーというインドの国の女王様の会話を君たちがよくかみしめて考えれば、ヒントが与えられると思う。

女王マッリカーは夫であるパセーナディ王にこう問うたわけだ。

「わたしはあることに気付きました。この世で一番大切なのはわたし自身じゃないでしょうか。」

と。そうすると、王パセーナディは、

「そうか、確かにそうだ。わたしもわたしが一番かわいい。お前もそうか。しかし、どうも腑に落ちない。一つ、仏陀釈迦牟尼の所に行って、このことを問うてみよう。」

オウム真理教

と。そして、仏陀釈迦牟尼のもとに至った二人は、仏陀釈迦牟尼に問うたわけだ。

「実は如来よ。わたしたちはこのように考えました。この世で最も愛するもの、最も大切なものはわたしたち自身である。」

と。釈迦牟尼は、

「なんじらは素晴らしい。よくそれに気付いた。しかし、なんじらがなんじらを最もかわいいと思うように、なんじらの周りにいる人たち一人一人が、自分たちが最もかわいいと考えているんだよ。だとするならば、どのようにしたら本当に幸福になれるのだろうか。

自己がかわいい、自己が最高にかわいいと思うだけの心の量を、他に向けてごらんなさい。そうすることによって、本当に心が豊かになり、そして、他も自分を思いやるようになり、本当に幸せになれますよ。」

と。

仏陀釈迦牟尼は、出家した弟子に対しては、「サイの角のように一人行け」と、つまりただひたすら解脱、悟りを目指してね、突っ走れと言っていらしゃる。そ

して、在家の修行者に対しては、「木と木に絡む蔓のように絡んでいけ。絡めば絡むほど、心から互いに愛すれば愛するほど幸福になれるんだよ」と言っていらっしゃる。

一九八九年二月十九日　金沢支部にて

第三話　修行者になる——至福へのステップ」

「病に侵された心を癒す」

◉修行者として生まれ変わる確率

今日はまずね、いかにあなた方が功徳が高いかという話をしたいと考えている。

一つの魂が修行者としてね、生まれ変わる確率を仏典ではこういっているね。ここに輪廻（りんね）の大海があると。この輪廻の大海というものは、まあ宇宙だと考えましょう、ね。そして、そこにいろんな生き物がいて、ね、もがき苦しんでいると。この海を想定しますよ。そして、ある一つの魂がだよ、この世は苦しいから修行でもしてみようかと、一つ心を解放してみたいと、ね、考える時期というものは、だいたい三百年から五百年に一回だそうだ。そして、この三百年から五百年に一

回頭をもたげたときにね、そこに真理があるかどうかというのは、ちょうど地球全体の砂の中からだよ、一粒の真理という砂を得るに等しいと。

だから確率としては、まず要求する側が三百年から五百年に一回要求すると、そのときに地球規模の砂漠があってね、その砂漠の人粒の真理という砂を、ね、その三百年に一回、登場した段階でだよ、探し出した段階で得る確率に等しいと。

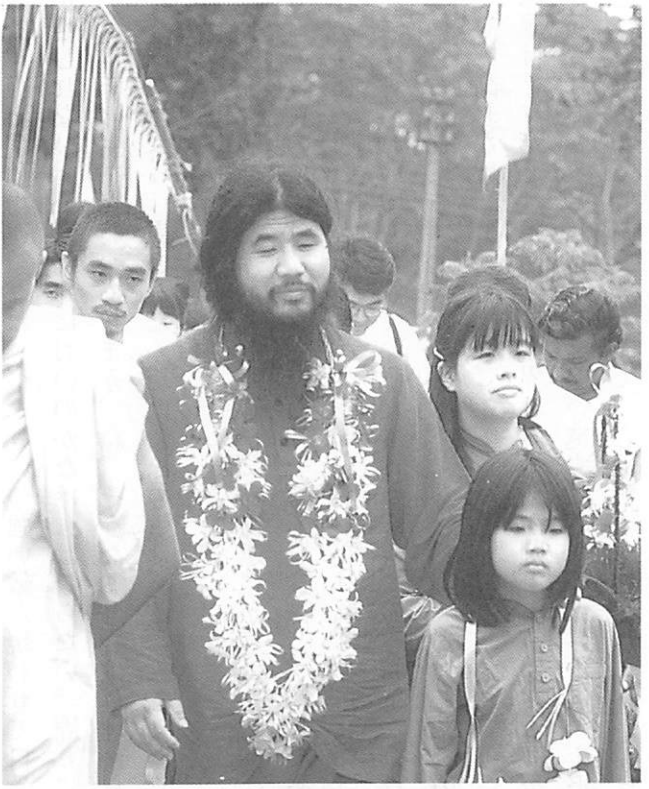
あるいは、二千五百年前の釈迦牟尼はこう言ってらっしゃるね。ここに大きな海があると、ね。そして海底には盲の亀がいる。この盲の亀というのはわたしたち凡夫を指している。そして、その盲の亀が、数百年に一度海上に頭をもたげて呼吸すると。そのときちょうど牛のくびきがね、流れて来てだよ、その亀の頭にポコッとはまる確率と。これがわたしたちの救済される確率だと。もちろんわかるよね。その亀は何を隠そうわたしたち凡夫だ。そして、海というものは輪廻の大海だ。その海にはたくさんの生き物たちが浮沈している。そして、牛のくびきというのはね、何かというと、真理だ。本当だろうかとあなた方は考えるかもしれない。

◉人間界以外の欲六界

今からわたしはあなた方にね、修行者として生まれ変わるための条件を一つずつ提示するからよく考えてごらん。まずだ、わたしたちがもし地獄に生まれ変わったならば、そこに真理はあるだろうか。地獄という世界は最も感情の波の激しい、ね、極限の寒さと極限の暑さの世界だ。ここで苦しんでいる者たちは、その苦しみから早く逃れたいということだけを考えている。当然真理を実践する、あるいは真理に目を向ける心のゆとりなどない。そうすると、まずわたしたちは地獄に生まれなかったことを感謝しなければならない。

次に餓鬼はどうだ。餓鬼の世界というものは、貪(むさぼ)っても貪っても、ね、満足できない世界だ。当然、心はその飢えや渇き、あるいは一切の執着というものに心が縛られている。真理があったとしても、それに目を向けることはしないだろう。だから、わたしたちは次に餓鬼に生まれなかったことを喜びとしなければならない。

じゃあ、次に動物はどうだ。もちろん、ペットはね、例外だけども、ペットで



はない動物は、絶えず動物連鎖、ね、つまりいつ強い敵が現われて自分が殺されてしまうかもしれないという恐怖におののかなければならない。周りに気を配ることによって、その生を終わってしまう、ね。そうなると心は真理から閉ざされてしまう。そうでしょう。生きるためだけにその生はある。殺されたくないためだけにその生はあるんだよ、ね。

じゃあ、ペットはどうかと。ペットは確かに動物連鎖から外れてはいるよね。しかし、そこには真の自由はないね。ただ、一時的な食物と、そしてあとは飼い主のエゴしか存在しない。もちろん、ペットを飼わなければならないほど苦しんでる人は当然真理においても離れているだろうから、このペットが真理の法を聞く機会もない。じゃあ、まずわたしたちは、地獄、餓鬼、動物に生まれ変わらなかったことを感謝しなければならない。

次に阿修羅はどうだと。阿修羅の世界は、絶えず闘争本能からくる努力というものに追い回されている、ね。神々を追い越すために、天界の住人を追い越すために、ただひたすら働いている。よって、心は解放されるどころか、真理に向か

うどころか、闘争だけに集中しているわけだ。当然、阿修羅の世界に生まれた者もね、心の解放を得るチャンスというものはなかなかない。

もちろん、天界の住人というものは一種の瞑想状態にいるわけだから、ある程度の瞑想状態にいるわけだから、それは気持ちが良かろう。しかし、彼らはその神々という状態に満足しているがために、本当の意味での真理の法というものを、ね、見ようとしなくなる。ま、せいぜい神々が生を受けて生きられる期間というものは数千年だ。もちろん仏典にはね、数百年ということになってるけども、わたしは数千年だと考えている。

◉人間界に生まれた中でも

そうするとだ、わたしたちはまず、この地獄から始まり天界に終わる欲六界の第四位の人間界に生まれたことを感謝しなければならない。しかしだよ、人間界に生まれたとしても、まず条件としてだ、真理の法というものに巡り合える確率は非常に少ないことになる。例えば、日本においては神道があるね。あるいは、

アメリカ、ヨーロッパにおいてはキリスト教がある、ね。こういう供犠を中心にした、しかも単なるお祈りだけの宗教しかない国に生まれたとしたならばだ、わたしたちは本当の意味で心を解放することはできない、ね。だからまず、仏教国に生まれたことを、真理の法の国に生まれたことを感謝しなければならない。

次にだ、もしだよ、真理の法があったとしても、小さいころから殺生、偸盗、邪淫、そして大嘘と酒、これに翻弄されて、心の本質的なありようというものを見ることができなかったならば、目の前に真理があったとしてもそれに巡り合うことはできないし、手に取って味わうことはできないわけだ。そういう意味でいったならば、過去世から偉大な功徳を積んできた、ね、あなた方のカルマというものに、あなた方は感謝しなければならない。

まだまだ条件は、これから出てくるよ。見てごらん。今言っただけでも、これを対等に考えただけでも、ね、もう七分の一だとか、八分の一だとか、九分の一だとかの確率になる。そうだろう。まず、わたしたちは地獄ではなかったと、餓鬼ではなかったと、動物ではなかったと、阿修羅の世界ではなかったと、天界で

はなかったと、ね。

次にだ、そこに真理があることはわかったと、ね。しかし、いろんな社会的条件によって修行のできない人もいる。ところが、あなた方はこうやって法を聴き、そして日常の生活以外に修行することができるという、ね、時間、偉大なる宝物である時間を持ってるわけだ、あなた方は。考えてごらんなさい。これほど偉大な功徳があるか。

まだあるぞ。国によっては、確かに真理の法、書物はあるかもしれない。古典的な仏教、あるいは古典的なヨーガという、ね、真理の法はあるかもしれない。しかし、その真理を本当に理解し、あなた方に教える、ね、教師だ、グルだ、これに巡り合う確率を今度は考えてごらんなさい。そうしたら、あなた方は今ここに集い、実践していることが、いかにね、素晴らしいことであるか、そして偉大であるか理解できるはずだ。

◉数千年に一度の真理との巡り合い

ヨーガの経典や仏典にはね、こう載っている。一国の王になるよりも、修行者として生まれ変わる方が難しいと。わたしはね、それはまさにそのとおりだと考える。例えば動物の世界にも王はいる、ボスはいる。辺境の地、ね、仏教やあるいはヨーガや真理というものの到達していない辺境の地でも、王になることはできる。

しかしだ、わたしたちが真に自由、真に幸福、真に心の解放というものをね、得るためには、まず真理の教えというものが必要である。そして、それを実践している団体が必要であると。それを率いているグルが必要であると、ね。それに会う確率とだ、王様になる確率を考えてごらんなさい。今まで、いろいろな、ね、仏陀、あるいは成就者、あるいは阿羅漢が現われた。そして、一群を率い、ね、この地球というものを救済しようとした。その仏陀、阿羅漢、あるいは成就者の数とだ、いろんな国における王様の数を比較してごらん。当然前者の方が少ないし、それに、その真理に追随し、成就していった人の数を比較してごらん。いか

に希有な、いかに稀なチャンスによって、あなた方が真理というものに、今ね、巡り合っているか、よくわかるはずだ。そして、真理というものは、ひとたび離してしまうと、また、ね、あなた方の心に曇りが生じ、数百年に一度というね、機会を通じてしか、あなた方の心の本然（ほんぜん）というものは真理を求めようとしなくなるんだ。

じゃあ、この数百年に一度とは何からきているんだと、どこから出しているんだ麻原と考えるかもしれない。ま、これは数千年に一度という考え方をわたしは提唱してもいいわけだけども、それは神々の心の状態からきてるんだ。わたしたちが最も徳を積み上げたとき、それを現世的に還元したときに、わたしたちはデーヴァとして生まれ変わる。天界の住人として生まれ変わる。そして、偉大な功徳はわたしたちに長寿を与える。それは数百年、あるいは数千年という長寿を与える。しかし、その長寿は、功徳が消えた段階でやはり死という結果を招くわけだ。それはこの人間界と同じだ。そして、神々は死ぬ直前になって初めて後悔する。わたしは今まで一体、ね、楽しみの世界にあったと。しかし、わたしは死という

ものから逃れることはできなかったと。この心の状態が凡夫にとって、一般の人にとって最高の状態なんだ。もちろん、地獄や餓鬼や動物に生まれ変わる魂というのは苦しいから、それから逃れようとする。当然、真理に巡り合うチャンスは多いかもしれないね。

あなた方はこういう疑問にね、ぶつかるかもしれない。ぶつかったことがあるかもしれない。例えば入会案内を勧めていて、あの人はすごくいい人なのに、このオウムの真理がわからないんだ、ね。それは、今日の説法でわかっただろ。つまり、そういう方々は必ず天界へ生まれ変わる。そして一種の、その人たちは瞑想状態にあるわけだ、徳による。だから、その人たちを真理に導き入れることは、なかなか難しい。

◉最高の薬——真理の法

話を元に戻そう。だから、わたしたちはこれだけの悪条件を乗り切って、今ここに修行するチャンス、最終的な真理に到達するチャンスに巡り合えたわけだか

ら、わたしたちの生き方には一つの道筋しかないわけだ。それは、何だ。真理の実践だ。そして、真理から離れないように、真理を手放さないように努力するしかないんだ。

今日のこの話を聴いている人の中で、ピンとこない人もいるかもしれない。それはこう考えなさい。わたしたちは猛毒に侵された患者であると。なぜ猛毒に侵された患者と言い切れるんだ。それはこの粗雑次元の人間の世界の中で、わたしたちは喜びと苦しみを味わっている。その喜びの本質というものが、幻影ということに気付かず、わたしたちはその喜びにうつつを抜かしているわけだ。

じゃあ、なぜそれは幻影なんだと。それは前提条件に無常というものがあるからだ。無常というのは、情けがないという意味じゃないね。常ではないということだ。必ず変化するということだ。例えばここに、ね、素晴らしいカップルがあったと。その男性と女性は愛し合っていたと。しかしだよ、この二人が深く結ばれれば結ばれるほど、情によって結ばれれば結ばれるほど、一方が亡くなったときの苦しみは膨大だろう、ね。あるいは今まで豊かな生活をしていたと、何の不自

由なく、金は使いたいとき使える状態にあったと。しかし、必ずその状態というものは崩れるわけだ。あるいは、死ぬときに持っていけないわけだね。そのときの苦痛というものは異常であると。ところがわたしたちは、本来それに気付いているはずなのに、心が病に侵されてるためにだよ、わたしたちはその実際の状態というものをありのままに見ることができないわけだ。そして、わたしたちは病に侵された病人であると気付いたとき、そこから本当の意味での修行が始まるんだね。

じゃあ、真理の法というのは一体何だと。真理の法というものは何だと。これは、妙薬だ、秘薬だ、最高の薬だ。そしてグルはね、最高の名医ということになる。例えばだよ、一つここで考えなければならないことがある。どんなに偉大な医者がいたとしても、どんなに素晴らしい薬があったとしてもだよ、例えば患者がその薬を飲まなかったらどうなるか、ね。当然、病は治らないということになる、ね。あるいは、その薬を飲んだとしても、名医が与える他の注意を守らなかったらどうなるか。つまり、単に一部分に取り入れた場合だ。それは病の治りが遅

くなる。あるいは治らないかもしれない。ここで大切になってくることは、その名医に対する信だ。だから、修行の根本は信であるといっているわけだね。例えば、真理に対する信、グルに対する信、ね、そしてグルのお手伝いをしている人たちに対する信だね。これを言い換えると、仏陀とそれからサンガとね、それから法、ダルマね、真理に対する帰依、信、これを最も大切な要因としている理由がここにあるわけだ。

もう一度繰り返すよ。わたしたちの心は病んでいる。いや、病んでいないと考えるかもしれない。しかし、それは真実の世界から見たら、明らかに一つの偏見なんだね。それで、その病んでいることを謙虚に受け止め、それを克服し、ね、この一切の世界を真実の眼差しで見ようではないか。

はい、では今日の説法を一応これで終わります。どうも近ごろ、大阪の人にはレベルの高い説法をしすぎるんじゃなかと思うんだけど、どうだそれは。急に難しくなったよね。いや、それだけ期待しているんだよ。

一九八八年一月十六日　大阪支部にて

仕事・アルバイト篇

◎自分でもびっくり！

山口晃永

信徒時代、それまでの会社を辞めて、オウムの活動がしやすいような〝給料が良くて、人間関係も良くて、残業が少なく、完全週休二日制の会社に入りたいなあ〟と思っていたら、一週間ほどして全くぴったりの会社に入社できた。それなりの年齢だっただけに、自分でもびっくりしてしまった。

◎すべての条件が満たされて

平川晋一

入信して様々な奉仕活動を始め、アルバイトを探していたときのこと、深夜勤務で日給一万円前後、家からバイクで十分くらいで、しかもなるべくカルマを受けないような仕事があればいいなあと心に描いていたところ、そのすべての条件を満たしてくれるアルバイトが見つかりました。

◎特に努力をしなくても

本間智加子

オウムに入ってから、特に努力はしていないのに、アルバイトの時間給が千四百円から千六百円にまでなりました。実労時間も、七時間のうち三～四時間程度で、残りはワープロやパソコンを自由に練習していいことになりました。

これは、深夜のビラ配りにほとんど参加し、少しずつ功徳を積んだお蔭だと思います。

こんな願いがかないました！

◎会社でナンバー1に！

ヴィータソーカ

功徳を積もうと思ってチラシ配りを始めたら、しばらくして営業成績も上がり、会社でナンバー1になり、二位に大きく差をつけて独走のときもしばしばありました。

また、財施をするようになってから、思わぬ収入が入るときもありました。

◎ボーナスが二倍に！

角川知己

オウムに入信した直後から大きな仕事をもらえるようになり、その年のボーナスは、会社の利益も上がったので、前年の約二倍になった。

◎人間関係まで良くなって

大森恵子

仕事では、売上が下がり気味なとき、道場に通い始めたところ、少しずつ売上が順調になり、上司とも仲良くできるようになりました。また、長期バクティーに行くことが急に決まり、普通なら仕事を辞める一カ月前に言わなければ辞めさせてくれないのに、二週間前でもOKが出、東京へ行くときも、みんなに励ましていただきました。

◎必要なときに急にいい仕事が……

ウルヴェーラ・カッサパ

フリーの演奏活動をしていたとき、オウムに入ってから少しずつ仕事も増え、特にセミナーなどでお金が必要になると、急に割のい

い仕事が舞い込んできた。出家の前には、外国へ演奏旅行に行く話がいくつも持ち上がり、生活も豊かになりつつあった。

◎布施の実践によって

神宮　優

わたしは布施の実践によって、必要だなと思ったときにお金が入るようになりました。例えば、イニシエーションがあるのでお金が欲しいなと思っていると、親類の人がお小遣いをくれたりといった具合です。

アルバイトも、好条件のものが見つかり、一晩でポンと一万円手に入るといったようなことが起こりました。

◎仕事をしなくても給料がもらえた！

サンジャヤ

信徒時代の願望成就としては、経済的理由で尊師最後のシャクティーパットを受けるのが難しい状況だったのに、思わぬ入金があり、それが可能になったことがありました。長時間アルバイトをする時間的余裕もなく、どうしようかと思っていたところ、奨学金、親戚からの援助、アルバイトの臨時収入があり、あれよあれよという間に一〇〇万円も転がり込んできたのでした。

しかも、アルバイトに関しては、先方の都合で仕事は全くしていなかったのにお金だけ入ったという状況でした。

こんな願いがかなえました！

◎任用期間中の退職が認められた

古沢良充

わたしは自衛隊の任用期間中に、仕事を辞めて出家しようとしたところ、思ったよりスムーズに事が運びました。連帯長の方針は任期途中の退職は認めないとのことだったのですが、なんと同じ自衛官でもあった父親の助けによりあっさりと辞められたのです。現職の父親にはメンツもあったと思うのですが、手紙を書いてくれて、何かにつけて反対していた上司も何も言わなくなりました。

出家するときも、同じ日に出家する人がいて、二人とも仙台から富士までの道を知らなかったにもかかわらず、車でほとんど迷わずにたどり着くことができました。

◎アルバイトだけでなく……

山谷浩之

わたしは、無職の状態で〝借金入信〟しました。それからアルバイトを探したのですが、面接に行く道すがらビラまきをしていくと、あっさり即決で採用になりました。しかも、暇な時間はアストラル音楽を聴いたり、教学したり、行法をし放題という好条件でした。

奉仕活動の効果としては、信号で赤を見ることがなくなりました。乗り物がいいタイミングで来るというのもありました。また、やたら女の子にモテ出したのです。しかも、綺麗で気だてのいい子ばかりでした。

ずっと家に閉じ込もりがちで他人と会うことのなかった生活が急に華やいで、気分も和らいだようです。

第二章　最高の願望成就―希望に満ちた来世を得る

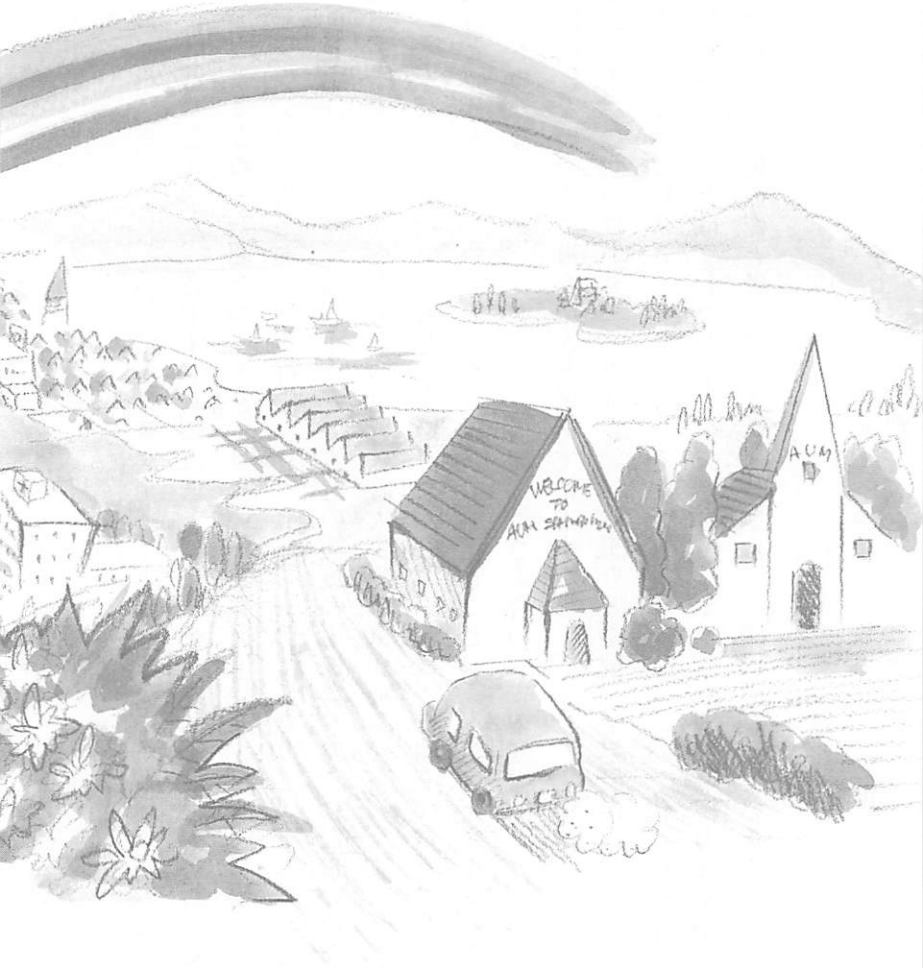
まず皆さんに感謝しなければならない。それは去年（一九八七年）、道場建立のパンフレットにうたわれていたことを一通り達成できそうだということです。まず、皆さんのご協力に対してお礼を申し上げたいと思います。どうもありがとうございました。そして既に、第二次の「ロータス・ヴィレッジ構想」というものを今考えています。

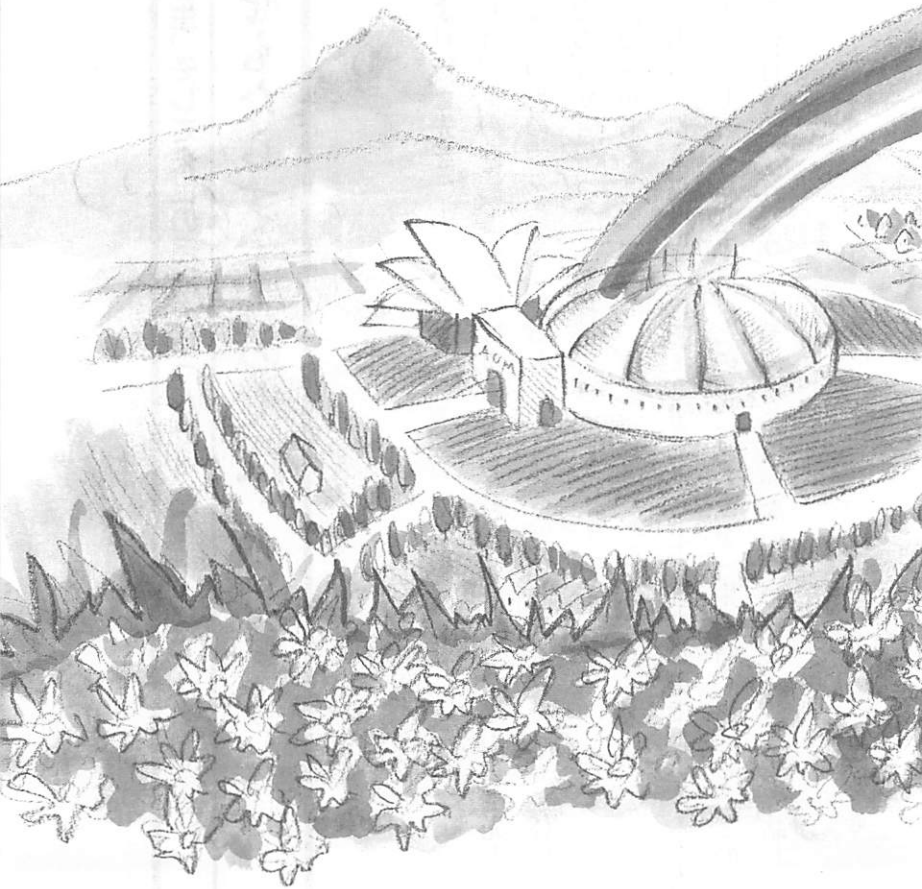
これは何かというと、まず、この人間の世界に生を受けた者が、真理の流れに入り、真理の教えにのっとった小学校、中学校、高校、できたら大学まであって、真理の実践をしながら社会生活を送っていくと。そして、最終的には、死の瞬間にね、ポアしていただいて、まあ、天界に行きたい人は天界に行くと。また、人間界に生まれ変わって同じように真理の実践をしたい人は、そうすると。あるいは涅槃をしたい人は涅槃するというようなシステムができればなあ、というね、わたしの一つの構想です。この計画によって、闘争のない平和な世界、人が人を裏切らない平和な空間、本当の意味での愛にあふれた静かな空間が訪れるだろうと考えているんだね。それを、わたしたちオウムのね、一つの象徴である蓮華、

ロータスだね、そのヴィレッジ、村からスタートしようじゃないかというものです。

そこにはどんな人でも、必ずオウムに入信し、実践をすれば高い世界へ行けるんだというようなね、空間をつくろうではないかと考えています。もちろん、初めはヴィレッジ、これがタウン、町になり、そしてシティになりと。そして、できたら世界中ひっくるめてね、オウムの修行の実践の場になってくれたらいいなと考えています。まあ、もともとわたしは誇大妄想の気があるから、今、あなた方が聞いてもピンとこないかもしれない。しかし、一応は道場建立のパンフレットの内容というものを、わずか一年足らずで消化したという実績は、オウムの底力というものかな、まあ、スタッフ、信徒の皆さん合わせての底力というものの、一つの証明になったんではないかと考えています。

したがって、今回のロータス・ヴィレッジ構想も五年後、十年後には、きっと現実のものとなっていることでしょう。そして、世界をシャンバラ化し、多くの人々を解脱させることは、わたしが一生を懸けて、オウム真理教の総力を結集しなければならない使命だと考えています。皆さん、一緒に頑張っていきましょう。


WELCOME
TO
ACM SEMINARY
ACM



第一話　今生、そして来世の目標をしっかり定めて

「福徳をもたらす十善の実践」

◉車の性能より行き先を

わたしたちは、車の性能、あるいは車のよし悪しと、わたしたちの行き先とをね、混同してこの世の中を生きていると。こういう話をしても、だれも一体何を言ってるのだろうかということが理解できないかもしれない。

ここに三台の車があると。一台は、ね、ベンツであると。一台は、センチュリーであると。一台は、例えば五五〇ccのミニカであると、軽自動車でね。この三台の車があると。そして、現代人は、どの車に乗るかを一生懸命心に念じ、その車によってどこへ行くのかということを理解していない。わたしがここまで話した

としても、まだ理解できないかもしれない。

わたしたちは、この粗雑な世界において、六つの世界観というものを持っている。それは、地獄、餓鬼、動物、人間、阿修羅、神々であると、ね。そして、もしわたしたちが車にこだわった生き方をするならば、わたしたちは間違いなく落っこちてしまうだろうと。

それは一体どういうことなのかと考えるならばね、例えば仙台を起点として、札幌、東京、あるいは大阪といったね、この三つの終点を考えてみようと。そうすると、わたしたちは、例えばセンチュリーによっても、あるいはベンツによっても、あるいはミニカによっても、ね、その最終地点である札幌、あるいは東京、あるいは大阪へ到着することはできる。どうかな、これは。きちんとガソリンを入れて、目的地へ向かえば到達できると思うか思わないか、どうだ。

例えば、ミニカという軽自動車に乗るからわたしたちは大阪へ行けないとか、あるいは東京へ着かないとか、あるいは札幌へは着かないとかいうことはないよね。どうかな、これは。理解できますか。

◉車にとらわれず、正しい生き方を

しかし、ね、現代人であるわたしたちは、その車種を選ぶことに奔走して、目的地を忘れてしまっていると。では、この一体車種とは何だと。

これは、現世の喜びであると。ある人はいい家に住み、ある人はいい車に乗り、ある人は、ね、人をだまし、たくさんの悪業をなして商売に成功すると。当然それによって得たものというのは、ね、今言ってるとおり、大きな車、あるいは高い車にたとえることができると。しかし、その人たちは、一体自分が得たお金をどのように使えばどのような世界へ行くかということを理解できていないと。どうかな、これは。

例えば、お金の儲け方を教えますと。ねえ、例えば、宗教団体でもこれはやってるけどね。例えば、いい結婚の仕方を教えますと。しかし、そのお金をどのように使えば、わたしたちは、例えば高い世界へ生まれ変わると。どのように使えば地獄へ落ちると。あるいは、どのように使えば正しくそれは商売をしたことになると。あるいは、どのようになせば正しくない商いをしたことになると。ある

いは、何が正しい職業で何が正しくない職業であるかということは、わたしたちは学ぶ機会がないよね。どうかな、これは。どうですか。

そして、他の人よりもできるだけ豊かな生活がしたいと。他の人よりできるだけ大きな家へ住みたいと。他の人よりできるだけいい車に乗りたいと。他の人より、できるだけいい品物を手に入れたいと。そう考えないかな。どうかな。そして、それによって、「ああ、あの人は立派な人である」と。「あの人は例えば立派な人ではない」という考え方が生じるんじゃないかな。どうかな。

例えば、いいかな、ここに身清く、出家した、ね、本当にボロ布をまとった修行者がいたと、ね。もちろん、この人はボロ布をまとってるわけだから、あまり徳があるわけではないと。しかし、真理を実践して、来世高い世界へ生まれ変わろうとしていると。もう一方では、先程言ったとおり、いい車に乗り、いい家に住み、社会的にも一流の立場にある人がいたと。あなた方は、どちらの方が素晴らしい人だと考えますか。ね。

一般的には後者の方、いい車、いい家、社会的に素晴らしい地位に立っている

人を素晴らしい人と考えるんではないかな。どうかな、これは。そしてそれを、わたしは先程、車だといったんだ。しかしだよ、その人が一体、どの道を通ってどこへ到達しようとしているか、これは君たちにはわからないよね。どうかな。どうですか。わかりますか。わからないよね。

そして、ね、もう真理教の信徒であられる方は、実践をしてる方は、どちらの方が本当は価値があるかというのはわかるよね。どうだ。わかるよね。そして、これをわたしは、車と道のたとえであるというふうにいっているわけだ。

そして、あなた方の今生の目標、これをきちんと定め、そして、来世の目標をきちんと定めね、もしあなた方が正しく生きるならば、それはあなた方だけではなく、あなた方の周りの人にも素晴らしい恩恵があると、ね。もし車にとらわれ、正しくない生き方をするならば、あなた方だけではなく、あなた方の周りの人にも悪い影響があると。

◉十善の教え——天の世界へ

それは、一体なぜだろうかと。真理の実践というものは、ね、身における実践、これが三つ、口における実践、これが四つ、それから心における実践、これが三つあると。いいかな。

そして、まず身における実践は、できるだけ生き物を殺さないと。そしてね、今日を境に、もしあなた方が完璧に殺生をやめ、生き物を慈しもうとする気持ちが出るならば、あなた方は間違いなく天の世界へ生まれ変わることができるだろうと、仏典ではうたわれています。

もし、あなた方が盗みをやめ、あるいは人のものを取ろうとしないで施すことだけを考えるならば、あなた方は豊かになっていくだろうと、ね。

もし、愛のないセックスをしない。あるいは、妻以外の者と、あるいは夫以外の者と性的な交わりをなさなければ、ね、あなた方の心は豊かになり、そして夫婦の仲も良くなり、子供たちも両親を信じ、ね、家庭は円満になるだろうと。

もし、あなた方が、嘘をつかず、正しい言葉だけを語り、ね、そして、言葉の

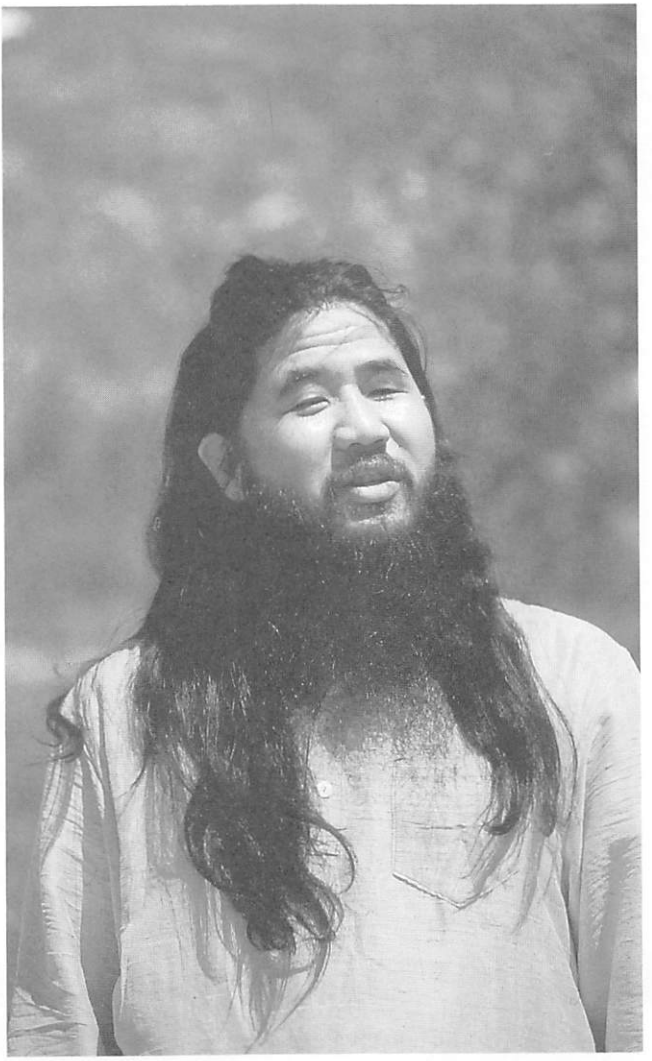
一つ一つの意味合いを絶えず意識しながら話すと。そうすることによって、あなた方の発した言葉というものは、力を持ってくるだろうと。力を持つとはどういうことかというと、あなた方の口から出たことというのは現象化するであろうと。

もし、意味のない言葉を語らず、ね、飾った言葉を語らないで、淡々と礼にかなった真実だけの言葉を語ると、ね。そうすることによって、あなた方の心は集中し、そして、周りからも尊敬されるようになると。その上に、徳の高い人がその人を引き立て、ね、そして真理に到達するスピードを速めると。

もし、ね、いかなることがあっても、相手をののしらず、そして罵倒せず、淡々と語ると。そして、言葉に怒りの念を込めなければね、周りの人から愛されるような生き方ができるようになるだろうと。

もし、自己の利益のために、あなた方の身近な人のね、仲たがいをするような言葉を使わなければ、ね、大いに周りから信用を得、そしてその徳によって地位がどんどんどんどん上昇するであろうと。

そしてね、心に貪(むさぼ)りを持たず、布施の実践を行ない、ね、そして大いにすべて



の人の徳を誉め称える心を持つと。これを実践することによって、あなた方の物質的願望というものは、すべてかなえられるであろうと。

もし、嫌悪の感情を持たず、嫌悪から生じる怒りの感情を持たなければ、ね、すべてのものがあなた方になつき、そして天の世界へ生まれ変わるであろうと。

もし、すべてのものをあなた方がありのままに見つめ、ね、これは真実であると、これは真実ではないと、これは人を益するものであると、これは人を益するものではないということをきちんと理解し、ね、その実践を行なうならば、あなた方の智性は向上し、そして、人にだまされることもなく、すべてのことにおいてあなた方が思った方向に進んでいくだろうと。

これが、十本の正しい道であると。これを十善の教えといいます、ね。そして、あなた方がその十善の教えを実践するだけで、あなた方の心は、ね、少しずつ少しずつ静まり返り、そして徳がみなぎり、心は豊かになり、天の世界へ生まれ変わると、ね。これが道であると。

◉破滅の道――徳に応じた運転を

とことが、もしあなた方が車にこだわるならば、つまり現世的なものに、ね、無理をしてこだわるならば、そこは破滅の道であると。

では、なぜ破滅の道なのだろうかと。車というものは、今わたしが話したとおり、徳によって備わるものであると。ある人は、徳によってミニカしか備わらないと。ここでのミニカというのは、あくまでも、ね、貧しい徳の典型として聞いてほしい。ある者は、センチュリーしか備わらないと。ここでのセンチュリーというのは、ほどほどの徳のある人という意味で聞いてほしい。ある者は、ベンツが手に入ると、ね。この人は、かなりの徳のある人だと思って聞いてほしいと、ね。そうすると、徳というのは何かというと、運転技術をも意味していると考えましょう。

そうするとだ、例えばここに五五〇ccのね、ミニカがあったとしてだよ、このミニカを、ね、例えばベンツのスピードを出すような感じで一五〇キロとか二〇〇キロとか出そうとしたとしよう。この車はどうなると思うか、君たちは。どう

だ。当然、エンジンが焼ききれる、あるいは、事故を起こす確率って高くなるよね。どうかな。わかりますか。これが、徳が備わっていないのに、ね、無理をした例であると。

逆にだ、その人が無理をして、ね、ベンツを得たと、ね。しかし、技術的には本当に初心者クラスの技術であったと、ね。そして、アクセルを踏みっ放しにしたと。当然、スピードは二五〇キロと、二八〇キロといったスピードが出ていくよね。そうしたらどうなりますか。事故を起こす確率は、どうかな。大変高い。そして、もしハンドル操作を誤ったらどうなりますか。そこには死があるよね。それと同じように、ね、徳がないのに無理をして高い地位へ上った場合、わたしたちは破滅の道に追いやられるんだということを理解しなければならない。

◉三つの布施、そして十の善行を

では、わたしたちは何をなせばいいんだといったら、先程言ったね、十の善行を行なうと。そして、三つの布施を行なうと、ね。ここでは、真理教の人はよく

知っていると思うけど、まず物質、財における布施であると。二番目は、真理を流布するという布施であると。三番目は、相手に安らぎを与えるという布施であると。この三つを行なうと。そして、それよりもうワンステージ高い十の善行を行なうと。

これは、ね、もう一度簡単に触れるけど、生き物を殺さないで慈しむと。盗みをしないで施すと、ね。そして、妻や夫以外の者とは交わらないと、ね。そして、嘘をつかないと、ね。それから、意味のない言葉を発しないと。だじゃれみたいなもんだね、これは。それから、悪口を言わないと。それから、仲たがいさせるような言葉を発しないと。そして、心を貪りから解放すると。嫌悪や怒りから解放すると。そして、真理を否定しないで、ものをありのままに見つめる訓練を行なうと。そして、これをなすならば、あなた方は今日この瞬間から、素晴らしい福徳を得ることになるでしょう。

今日の話はよくわかりましたか。どうですか、みんな。そして、これはあなた方が考えても、実践すれば利益になると思われるでしょう。どうですか。例えば、

あなた方の周りの人がこれを実践していたとして、あなた方がその人を信用しますかしませんか、どうですか。そして、人間に最も大切なものというのは、信用じゃないかな。どうかな。

この逆の人がいたとするよね、例えば。まず、そういう布施とかもやらないと。それから、十悪を平気で行なっていると。ということは、あなた方が例えばその人に対して、自分の心の内側を話す気持ちになりますか。ならないよね、当然。ということは、逆にあなた方がその実践をなせば、あなた方の徳は人間だけではなくて神々にも称えられ、ね、そして、あなた方は天の世界へ生まれ変わることは間違いないわけだ。大いに実践しましょう。いいですね。

一九八九年四月十五日　仙台支部にて

第二話　アナータピンディカ長者に見るカルマの極意

「悪業が尽きて得る大楽」

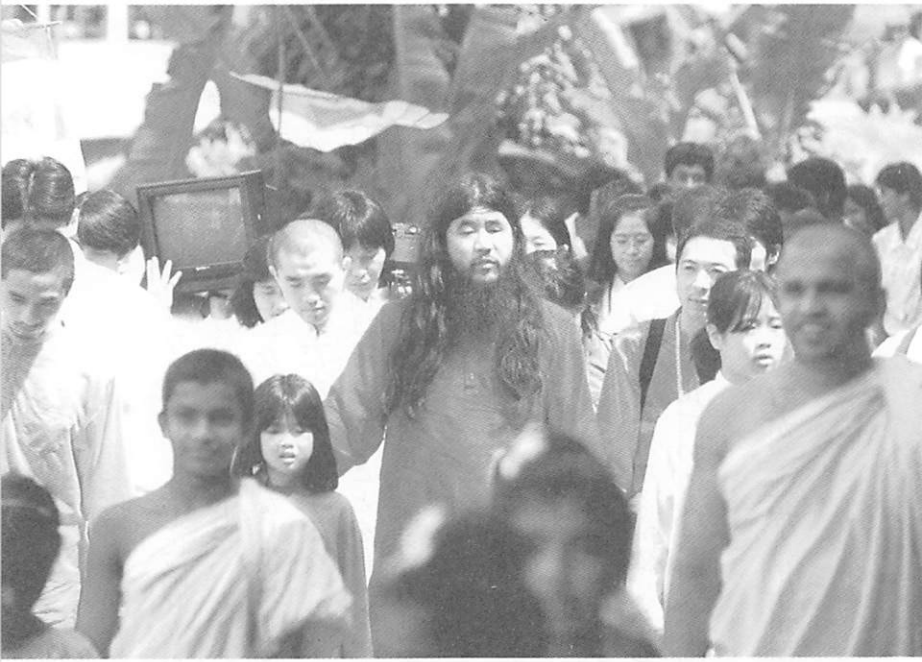
◉アナータピンディカ長者の帰依

アナータピンディカ長者は、皆さんもご存じのとおり、まあ現代のお金にするならば数十億、あるいは数百億ともいえる布施をなした方である。このアナータピンディカ長者が、仕事もせず、仕事もせずというのは、早朝一回、朝食後一回、夕方一回という三回、バクティーに通ってらっしゃったわけだね。これは毎日です。そして、そのバクティーに通うときは、皆さんが、つまりサマナが期待するだろうからといって、必ず何か手土産を持って、つまりお布施の品を持って、アナータピンディカの園にある精舎（しょうじゃ）にね、お通いになったそうだ。

ということは、仕事もせず、そして、その上にアナータピンディカ長者は、人にお金を貸して、これも数十億という金額だけども、一切取り立てをしないと。そしてここは、まあ皆さんがちょっと納得しづらいとこだけども、仏陀の弟子になられて、自分の財産の数十億を川の堤防に埋められて保管していらっしゃったけども、洪水で流されたと。その他に、比丘衆を毎日五百人、食の供養をなさったわけだから、それは経済も破綻しようと。

そして、あるとき釈迦牟尼に呼ばれて、アナータピンディカ長者は釈迦牟尼のもとにいらっしゃったと。で、「どうだ、無理をしているんじゃないか」という話のとき、「いや、無理はしておりません」と。「昨日の残りものの粥と、それから酸っぱい粥でしたら、今も毎日五百名の比丘に供養することができます」と。つまり、ご馳走は供養できないけども、食の供養はできますと。それで、まあ続けていたわけだ。

アナータピンディカ長者が住んでいる家は八階建てで、その四階に女神が住んでいたと。子供を連れてね。で、その女神は、仏陀釈迦牟尼の弟子たちがその家



に入ると、徳の差によってそこにいられなくなり、地上に降り立っていたと。で、その女神は、アナータピンディカ長者の侍者たちに対して、あるいは息子たちに対して、「釈迦牟尼を供養したって貧乏になるだけだから供養するな」と。あるいは、「比丘を供養しても貧乏になるだけだから供養するな」という話をしたと。ところが、侍者もそして息子も、「お前はそういうことを言うな」と。「お前がいくらそういうことを言っても、わたしはそれに対して何ら心を動かすことはない」と。そして、アナータピンディカ長者にもその話をしなかったと。

ところが、とうとうアナータピンディカ長者の経済が尽きて、どうしようもなくなったと。そこで女神は、ピンディカ長者のそばに行き、そしてもう一度仏陀釈迦牟尼と、それから比丘の批判をしたと。ところが、アナータピンディカ長者は逆に、「わたしの仏陀に対する帰依、ダルマに対する帰依、そしてサンガに対する帰依は変わらない」と。「お前は家から出ていくべきである」と言われて、とうとう女神はそこに住めなくなったと。

そして、まず、地神に会いに行くと。ところが、地神も仏陀釈迦牟尼と、それ

から比丘の功徳を知っているから、その女神の言うことについて納得できず、そしてアナータピンディカ長者に対する詫び、これを一緒に行なってくれという話があったわけだけど、それについても断わられたと。次に四天王衆天、ここでも断わられたと。次にインドラ、三十三天の王であるインドラの所に女神は行ったと。で、インドラは一緒に詫びに行くことはできないと。なぜかというと、仏陀の徳、それから比丘の徳を考えると、女神に協力することはできないからと。しかし、次のことをなせば、おそらく許してもらえるだろうと。

そして、女神に対してなしたアドバイスは何かというと、まず、川底に沈んでいる数十億のお金、そして人に貸した数十億のお金、これは、鬼神をね、連れて取り立てなさいということで、取り立てさせたと。それだけではなくて、持ち主不明の数十億のお金、これは、埋まっているお金があったわけだけど、それも一緒に持っていってあげなさいと。そして、アナータピンディカ長者の蔵をまたいっぱいにして、詫びを入れたと。ところが、アナータピンディカ長者は、それはわたしが裁定するわけにはいかないと。あなたは仏陀と、そしてサンガについての

批判をしたわけだからと。これは仏陀釈迦牟尼の所に行きましょうと。そして仏陀釈迦牟尼の裁定を仰がれたと。

◉逆境のときこそひたすら功徳を

わたしたちが人間として生まれ、善因だけではない、当然悪の因もある。そして、その悪の因が悪の果を生じているとき、その悪の果が生じているにかかわらず、一生懸命功徳を積んでいたとしよう。このときに何が見えるのかといったら、悪果しか見えない。つまり、苦しみ、はたから見ると苦しみ、悪い現象しか見えないんだ。ところが、確実に善因は積まれている、ね。

逆に、善因が結果を招いているとき、その人は大変幸福そうに見える。例えば、現世的な言い方をすれば、素敵な恋人、たくさんのお金、高い地位等々の善果が見える。しかし、悪業をなしていると、悪因をなしていると、それは潜んだ形として現われ、そして善因が尽きた瞬間、今度は悪果が生じると。まあこれは、例えば田中角栄なんかの例がその典型じゃないかとわたしは思います。そして、ア

ナータピンディカ長者が貧しくなった例というのは、過去においての悪業が結果として生じたにすぎないと。しかし、功徳を積んでいるから、いずれ善果が生じてくるはずであると。そして、その善果に今度はとらわれてしまうと、とらわれ、悪業をなすと、いずれその善果が尽き、また悪果が生じるのであると。この法を聞いた女神は、その瞬間、預流果を達成したそうである。

今まさに、オウム真理教の信徒という立場は、この状態とぴったりではないかとわたしは考えます。つまり、それは何かというと、社会的に叩かれると。そして、自分自身をオウム真理教の信徒であると言えないと。麻原尊師を信奉していると言えないと。尊師のダルマを信奉していると言えないと。あるいは、大師を信奉していると言えないと。しかし、それは逆であって、こういう逆の環境のとき、あなた方が真理をしっかり学び、実践し、そして周りに対して真理を説くということは、ね、説きやすい状態で説くのの何倍も、何十倍も功徳になるということである。

◉三つの功徳——仏・法・僧に対する帰依

人は必ず死ぬ、絶対死ぬ、死は避けられないと、わたしはよく近ごろ言う。それは、あなた方があまりにも生きるということに対して幻影を抱いているからである。それは、死というものを何度も何度も深く考えてこそ、初めてその生きるということが無意味なものであると、そして本当は生きるとか死ぬとかいうことなく、ひたすら善業を積み、功徳を積み、そしてひたすら持戒を守り、もっともっと長い高い世界を意識するべきであると。例えば、八十年間、前生の功徳により豊かな生活をしたとして、死んだ後、悪趣である地獄・動物・餓鬼に生まれ変わるよりは、今生でそこそこ食べていけりゃいいじゃないかと。普通に生きていけりゃいいじゃないかと。あとはひたすら功徳を積み、身・口・意の善業を積み、そして来世、憤怒天、あるいは戯忘天界へ生まれ変わるという方が、ね、長い長い魂の転生から考えたら、よっぽど得であると考えなければならない。

では一体、何をなせば高い世界へ生まれ変わるんだと。もちろんそれは、アナータピンディカ長者のように多聞であれば素晴らしいと。多聞というのは何かとい

うと、まあ仏教語、オウムの言葉では多学という言葉を使っているけど、要するによく説法を聴き考えると。あるいは、『マハーヤーナ』を読み考えると、ね。この土台ができてれば、もうあとはわたしは話すことはない。なぜならば、その教えの中に今日話すであろう八つの功徳というものが、あなた方の中に既に内在しているからである。

　では、この八つの功徳とは何だろうかと。これはまず、仏陀に対して、グルに対して、あるいはシヴァ大神に対して、つまり根本的な教えの主に対して帰依をするということ。帰依というのは何を含むかというと、ただ信じてますよでは駄目なんだね。これは布施、そして奉仕というものが含まれなければならない。次は、ダルマに対して、法に対して、真理に対して帰依をするということ。つまり、これに対しても同じで、この法に対して布施、あるいは奉仕というものがなされなければならない。じゃあ、例えばダルマに対する奉仕とは何かといったら、それは法施であると。次は、サンガに対して、つまりオウムでは師、あるいはサマナに対して布施の実践を行なわなければならない。あるいは、奉仕の実践を行な

わなければならない。これが土台、三つの功徳といわれているものです。つまり、仏・法・僧に対する功徳です。

◉五つの功徳——五戒

では次に、一般の衆生に対してはどういう功徳を積むんだと。これは、五つの戒めを守ることにより功徳を積むんだよと。つまり、殺生を離れ、そして慈しみの心を持つと。これによって、いろいろな生き物が安らぎを覚えると。

実は、面白い例がある。サティアンビルにはたくさんのネズミがいます。そして、例えば七月、マハー・マーヤ正悟師（現ヤソーダラー正大師）が瞑想しているとき、マハー・マーヤ正悟師の膝の上で戯れたネズミがいると。あるいは、わたしが休んでいるとき、わたしの足の上でダンスを踊っていたネズミがいると。いや、これは事実だよ。ね、これは何かというと、殺生を離れ、そして慈しみのヴァイブレーションがあるから、ネズミが怖がらないんだね、全然。

第二番目は偸盗である。人のものを横取りするんではなくて、ね、そういう

ヴァイブレーションをやめて、そして、人にできるだけ施すと。こういうことを行なう。そして第三は、邪行を離れ、ね、よこしまな性的交わりを離れると。そして、堂々と生きると。第四は妄語を離れ、嘘を離れ、ね、そして真実を語り、堂々と生きると。第五は、ビール、あるいはお酒といった穀物酒ね、あるいはワイン、梅酒等の果実酒、こういうお酒から離れると。あるいは、タバコから離れることによって、絶えず安定した平安な意識状態で、いつも変わらない状態で人と接すると。

こういう功徳、これは周りに対する功徳だけど、こういう功徳を達成するならば、それはあなた方の平安となり、そして安楽食となるということだ。

こういう話がある。みんなも知ってのとおり、クンダリニーというのはムーラダーラから少しずつ少しずつ覚醒していく。そして、当然師のレベルになると、スヴァディスターナの力というのは大変強くなる。なぜかというと、邪行を離れているからである。そして、戒律を守っているサマナは大変異性にもてるようになる。しかし、もうもてるときには、既にその段階を達成しているわけだから、

興味を示さないと。で、ある、これは以前名古屋支部にいた大師だけども、出家して異常にもてるようになったんだと。しかし、出家してしまってるから、もう関係ないよねと、ね。

わたしが何を言いたいかというと、あなた方が先程言った八つの功徳、つまり仏陀に対して、法に対して、サンガに対して、あるいは殺生を離れ、偸盗を離れ、邪淫を離れ、妄語を離れ、そして酒を離れることによって、あなた方はこの現世において裕福に、平安に、そして尊敬を受ける人物となるはずである。

◉悔いのない実践を

ところがだ、果たしてこの中の何パーセントがそれを実践してるかということである。実践しないで、「わたしはオウム真理教の信徒だ」と。「何もいいことない」という、ね、もう無智の限りの人がいる。しかしそれは、その法を実践して、ね、初めて言える言葉であって、ただオウム真理教に入信しただけでは何の価値もないといえる。

そして、あなた方一人一人が多学の弟子となり、ね、大いに教学をし、そして瞑想し、ね、功徳を積み、戒律を守り、ね、そのステップを踏めば、必ず救済は成功するんだということをわたしはここに述べたい。なぜならば、わたしという中心の炎があって、その炎に対して、まず出家の弟子たちがもらい火をすると。そして、わたしと同じように大きな炎になると。次は信徒が同じようにもらい火をし、ね、一人一人が大きな大きな真理を照らす炎とならなければならないわけだ。ところが、信徒という名のもとに、全く湿ったね、木の状態であるとするならば、それは、果たして真理というものは広がるだろうかと。

救済は、一人一人の自覚であると。自覚というのは口八丁の自覚ではない。それは、教学し、ね、布施をし、ね、戒律を守り、瞑想し、しっかりと神聖なヴァイブレーション、神聖な生き方を周りに見せることによってのみ、それが達成されるんだということを自覚しなければならない。

多くの例において、悪果が生じた段階で落ちるパターンが多い。これは教学が不足してるからである。あるいは、前生においての修行のカルマがないからであ

る。しかし、前生において修行のカルマがないとしても、今生培えばいいじゃないかと。今、わたしの弟子たちの中には、わたしも含めて、次の信徒用『マハーヤーナ』に登場するカッサパ仏の弟子だった生、あるいはヴィパッシー仏の弟子だった生、ね、あるいは、それよりももっともっと以前の仏陀の弟子だった生というのが覚えている人がいます。これはどういうことかというと、今世界に、まさにこのオウム真理教が、真の仏教の、真実の、絶対的な真理の炎を照らすことのできるただ一つの教団であるということを証明しているからである。

そして、あなた方は、類い稀な功徳によって、今ここに集い、そして真理の実践をまさにすることができる段階にきている。この生をものにし、ね、今から十万カルパ、あるいは三十万カルパ、あるいは五十万カルパといった長い長い時の後、グル麻原と巡り合い、あの生が、今わたしが仏陀である生であると言えるような、そういう悔いのない実践を行なっていただきたいと思います。

◉真理に対する確信を

人は生まれ、老い、病み、必ず死ぬ。人は必ず死ぬ。絶対死ぬ。死は避けられない。そしてその避けられない死に対して、ね、絶対的な答えを与えることができるのは、仏典ではない。それはあなた方が仏典をもとに学び、そして師のもとに学び、実践し、瞑想し、経験したあなた方の内側の世界、これだけである。つまり、あなた方が自分の体験によって死というものを確信し、死後の世界を確信し、そして輪廻転生を確信し、ね、三界を確信しなければ、あなた方にとって本当の意味での真理に対する確信は生じないということを理解しなければならない。

あなた方が死を迎えるのが早いのか、それともその経験、バルドーの経験をし尽くすのが早いのか、これはあなた方が今日からどれだけ教学、布施、持戒、瞑想といったものをね、なすかで決まってくる。ここに、それを伝授することのできるグルがいる。そして弟子たちがいる。それに対して確信を持ち、しっかりと経験しなさい。そして、その経験は、あなた方、死後、その瞬間に多くの恩恵を

与えることになるだろう。もう、先月なしたポアの説明については今月はやらない。それは、ね、説法ビデオを見ればわかることだから。しっかり先月と今月の話を合わせて、一緒に学び、確信を持って、何をなせばあなた方に恩恵があるのかを考えましょう。いいね。

（信徒）はい。

◉願望を成就する方法

最後に、願望成就をする方法を一つ伝授しましょう。これも、来月の仏典に載ってるから、まあその説明を読めばよくわかると思うが、ひたすら布施・持戒をし、思念をし続けると。

例えば現世的な願望については、最もこれは低い段階で成就します。次に、四天王衆天、三十三天、夜摩天、兜率天、楽変化天、他化自在天、梵衆天へ生まれ変わるためにも、同じ思念の仕方をすると。そして、どの程度の功徳を積めば人間界へ生まれ変わり、どの程度の功徳を積めば天界へ生まれ変わるかの説明も、

そこでなされているはずです。

まあ、簡単に説明すると、あまり布施をせず、持戒を守らない人は、人間へ生まれ変わり、そして身分の低いというかね、苦しみの多い人間の世界を歩くことになると。そこそこに布施をし、そしてそこそこに持戒を守ってる人は、まあ普通の人間であると。次に、大いに布施をし、そして大いに持戒を守ってる人は、まあ人間界でもトップに立てると、ね。それから、次に天に入るわけだけど、これは非凡の功徳、非凡の布施、そして非凡の持戒の守り方をなした者が、第一天界から第六天界までの天へ生まれ変わり、そこで最高の享楽を味わうことができるとうたわれてます。

ただし、その場合、思念をどこへ設定するか、例えばそれを現世へ設定するのか、あるいは来世へ設定するのか、あるいは来世の現世へ設定するのか、それはあなた方が決めること。そして、それで願望はかないます。

それは、あなた方が、もうどんなことがあっても自分は帰依するんだと、どんなことがあってもその法にのっとり生きるんだという自覚をすれば、必ずあなた

方に幸福があるんだと。ただ、あまりにもその前に悪業を積んでいる場合は、その悪業がね、先にくるから効果がないように見えるが、確実に功徳の因は備わっているんだということを確信を持って実践に励んでほしい。いいね。

（信徒）はい。

さあ、しっかりと教学、布施、持戒、瞑想、頑張ろうね。

（信徒）はい。

一九九〇年十二月十六日　名古屋支部にて

第三話　真理を根付かせ、徳を根付かせる

「願望をかなえ、願望を超える」

◉幻影を打ち砕け！

人間のものの考え方というものは、まさに幻影の中にどっぷりとつかっているといわざるを得ません。それは外的いろいろなインフォメーション、つまり情報だけではなく、内的情報に左右されてるといえます。

例えば、典型的な例では「導き」。ま、わたしは昨年の十二月からこの札幌へ二度目の足を運んだことになるわけだが、中心的な支部、つまり東京、大阪、名古屋、福岡といった主だった支部については、十月の終わりから、つまり二カ月前から、この札幌より早く足を運び、信徒の皆さんに法を説いてきました。その

結果が一月になってやっと現われ、ま、全盛期の半分ぐらいの入信者数、つまり、そうですね、だいたい月に二百名前後の入信者数に復活しつつあります。これは何を意味するかというと、皆さんが例えばマスコミでオウム真理教が叩かれてる、あるいは社会的にオウム真理教が批判されてるという観念、この観念が幻影であることを意味しています。

例えば東京本部の例を挙げるならば、もう既に今月は四十七名の人が入信し、先月をはるか三倍のスピードで進んでいると。これは、現象を動かす心の働きが内側の障害、つまり自分自身の心の弱さに感応し、そして現象を動かせないということを現わしています。

これは導きだけではなく、自分自身の人生を精一杯生きると。そしてそこで大いに経験をし、その経験によってそれが苦であると認識するというプロセス、この認識するプロセスについても同じことがいえるというわけです。例えば、恋愛をしたい人がここにいたとして、自分自身の顔が悪いからもてないとか、あるいは足が短いからもてないとかいうナンセンスな思考をしてしまう。これも同じで、

結局内的情報に左右され、自己の人生を暗い方向へと導くということになります。

一体これらはどうして起きるのかというと、それはその人の真我が無明に覆われ、真実をありのままに見つめ、分析することができないからであるといわざるを得ません。わたしたちがもし、真理に本当の意味で目覚め、そして真理の実践をするならば、そのような多くの幻影、これを打破し、打ち砕き、そして何をなせば自己に利益があり、何をなさなければ自己が不利益を被るのかということを如実に理解することができるようになるでしょう。

◉真理の実践——四預流支

では、真理を理解するためには、あるいは真理を実践するためには何をなせばいいのかということになります。これは、まさに四つの預流支（よるし）の実践ということになるでしょう。この四つの預流支の実践については、多くのわたしの説法がありますからここでは簡単に触れ、ではそれを現実にどのように生かしていくかという話に転化していきたいと思います。

まず、この四つの預流支というのは、皆さん方の教師であるグル、そして真理、そしてその真理を実践してる集い、つまり集団、これに対して帰依をすること。帰依をするとは、その教えを学び、そして実践し、供養し、つまり布施、奉仕の実践を行なうということですね。これが第一であると。

第二は、その真理の教えを何度も何度も学ぶということ。これはちょうど、わたしがここに到着する前後、マハー・マーヤ正悟師の方が皆さんに説き示していた教学の内容、これと全く同じです。つまり、本を何度も読み、データを入れ換え、その後にじっくりと自分に当てはめ考えると。あるいは、説法テープを何度も何度も聴き、自分に当てはめ、そして考えると。これが二番目、あるいは三番目の預流支ということになります。

よく焦って一回目から考えてしまうと。そして否定的になると。なぜ否定的かというと、真理のデータより自己を苦しめるデータの方が多いと。で、まだデータが根付いていないのに初めから考えてしまうと。すると、ま、オウム真理教の教えというものは大変高度だから、難しいから、その言葉を理解することすら大

変なわけですから、そこでつまずいてしまうと。ではなくて、初めはしっかりとデータを根付かせなければならないと。そのために、二度三度と読み返すという必要があるでしょう。そして三番目に、それに基づき考えると。そして四番目は、考えたことを実践すると。当然、これは真理のなんたるかを理解し、実践するわけですから、大変な効果をその人にもたらすはずです。

◉徳の方向付けをしっかりと

そして、例えば在家の修行の土台である布施、あるいは奉仕、あるいは戒めを守るといったようなことを実践するならば、大いなる徳が皆さんに宿るはずです。そして、この徳を現世のある事象に傾け、この事象がこうなってほしいなと、例えば素敵な恋人が現われてほしいなと、例えば事業で成功したいなと、あるいは、来世人間界へ生まれ変わり、豊かな家庭に生まれ変わり、そして豊かな生活をしたいなと、このような思いをなす人は、必ずやそれが現象化するはずです。これは、多くの信徒さんが経験していること。

いや、それよりもう少し心のプロセスを進めて、来世天界へ生まれ変わるために、特に第一天界に生まれ変わるために、そしてそこで豊かな食生活の中に没入し、この上ない味覚を楽しむと、そう思念する人は第一天界へ生まれ変わるでしょう。

あるいは、美しい美女にかしずかれ、大いに享楽を満足し、そして自己の異性における享楽の欲求をすべて満たしたいなと考える人は三十三天の世界へ生まれ変わるでしょう。

あるいは、大いにプライドを満足し、悪を裁きたいと考える人は夜摩天（やまてん）へと生まれ変わるでしょう。

あるいは、天の享楽を満足し、それだけではなくてもっともっと多くのダルマを学びたいなと考える人は都史多天（つしたてん）へと生まれ変わることとなるでしょう。

あるいは、多くの神変、多くの神通を経験したいと考える人は、第五天界である楽変化天（らくへんげてん）へと生まれ変わることとなるでしょう。

あるいは、多くの神変、そしてこの上ない享楽を求めてる人は他化自在天（たけじざいてん）へと

転生することとなるでしょう。

そういう貪り（むさぼ）を持たず、ひたすら徳を積み、持戒を守り続ける人は色界（しきかい）、梵天（ぼんてん）の世界へと生まれ変わることとなるでしょう。

◉最終的にはマハー・ニルヴァーナへ

つまりポイントは、まず真理を根付かせると。そして次に、真理に基づき徳を根付かせると。そして、そのエネルギーを一方の方向へ流すと。よくこういう人がいる。功徳を積んだのになかなか修行が進まないと。よく聞いてみると、たくさんの願望を持っていると。しかも、その願望を達成するにしては徳が足りないと。よって、すべてが曖昧に現象化すると。

悪業の返り、これも十倍、あるいは百倍程度です。ということは、善業の返りも同じように十倍、あるいは百倍程度と考えるのが妥当であると。ということは、この法の実践を行なうことにより、皆さんの修行においていかに素晴らしい結果を招くかということは、皆さんが自分自身が徳を積み、エネルギーを漏らさない

ように戒律を守り、そして一つの方向に思念すればいいんだなということをご理解いただけたはずです。そして、それを励みとし、最終的には煩悩を滅尽し、そして梵天の世界へと転生し、梵の神々に生まれ変わると、これが仏教の第一の達成です。そして、十七色天、つまり十七色界には——ま、天の順位があるわけですが——この十七色天を経験し終わり、四無色天を経験し終わり、そして最終的なマハー・ニルヴァーナへと到達していただくこと、そのお手伝いをすることがわたしの役割だと考えています。

皆さんは、皆さんの心の内側にあるいろんな障害、心の外側にある皆さんを苦しめる情報に惑わされず、しっかりと功徳をお積みになり、教学をなさり、戒律を守り、そして皆さんの願望をかなえ、願望を超え、最終的にマハー・ニルヴァーナに入っていただきたいと思います。

一九九一年一月十九日　札幌支部にて

第四話　人間界から天界、そして仏陀へ

「すべては思いのまま、それが功徳」

◉仏教の世界観――欲六界、神々の世界

今日は仏教の世界観、インド哲学における世界観をね、これからまず話したいと思います。

わたしたちは、欲六界といわれる世界の下から四番目の世界、人間の世界に生を受けている。欲六界とは一体どういう世界なのかといったら、性欲、食欲、あるいは、高い地位に就きたいだとか、ね、あるいは名誉を得たいだとかというような欲望を根本としている世界という意味なんです。

そして、その欲六界の最も高いパートに、天界といわれている世界があります。

これは、例えば日本の神道、あるいはキリスト教でいわれている天の神々、天なる父といった世界です。その天界は六つに分かれている。その一番低い世界――これを第一天界といいますが――これにはね、四天王という名前が付いている。この四天王とはどういうとこなのかというとね、この第一天界というのは、より物質的な、粗雑な次元の神々の世界であると。そして、その東西南北を守護するという意味で四天王という名前が振られている。

そして、その上の世界には、ね、帝釈天、あるいは三十三天といわれる世界があります。そして、この三十三天の王は武力をもってね、神々の世界を守っている。そして、その上に仏教でいうところの閻魔天、ヨーガでいうところの夜摩天というのがあります。この夜摩天というのは、わたしたちが死後、裁かれるときの裁判官の役割をしている。

そしてこの夜摩天からは、空居天といってね、空天といって、要するに、陸に神々の世界があるのではなくて、空間に存在しているといわれています。

夜摩天の上には、兜率天、あるいは覩史多天、あるいは覩史多天といわれてい

る、仏教の菩薩様方の世界があります。あるいは、仏教以外の真理を実践している方々の世界が存在している。

そして、第五番目は楽変化天といって、望むものを自由自在につくり出す世界がそこには存在している。

そして、その上には他化自在天といって、自分自身も自由自在にものをつくり出す力が存在しているんだけども、周りの人がね、自分の欲するものを用意してくれるという、大変便利な世界が存在しています。

◉上位アストラル世界――「有」に対する愛着

そして、それよりも高い世界を、ヨーガでは上位アストラル世界といっています。仏教では、天界の一部、あるいは色界という言葉を使っています。ここには、ね、梵天――これはインド語ではブラフマンというんだけども――梵天の世界が存在している。

そして、仏教ではその上に十七の世界を数えることになっています。ヨーガで

は七つの世界がその上にある。これは分類法だから、ね、七つであろうと十七であろうと、そこに存在しているものは同じだと考えたらよろしい。

そして、この上位のアストラル世界は、生命に対する愛着、難しい言葉を借りるならば「有」、つまり存在に対する愛着だけを残した人が行く世界であるといわれています。そして、それよりも高い世界に、ね、俗にいうところの仏国土があるといわれています。

◉阿修羅から地獄の世界

では、天界から下をのぞいたらどうなるんだといったら、天界の下には、ね、陸続きの地下の国にね、阿修羅の世界が存在しているといわれています。阿修羅の住人は、大変真面目な方なんだけども、すごく観念的でね、徳を積むことに対して躊躇があって、徳が足りないと。だから、地下の国に甘んじなければならない。そして、神々に対して大変な嫉妬心を持っている。よって、阿修羅の世界に生まれ変わる要因というのは、嫉妬心であるといわれています。

そしてね、その阿修羅の世界の下、これが今わたしたちが生活している人間の世界です。人間の世界の根本は何かというと、情、ね、これは愛情で表現される情です。この情というのは、わたしたちにとって一見大変ありがたいように見えるんだけども、しかし、ありのままにものを見ようとする修行者にとっては、あまりありがたいものではない。

では一体、それはどういうことなのかといったら、ここにね、二つのものがある、あるいは二人の人がいるとして、ね、前者の方が例えば価値がある、後者の方が価値がないとしても、もし後者に対して情を持っているならば、前者より後者の方が価値があるように見えてしまうと。そういうね、マイナスの要因がある。だから、この人間の世界は下から四位に属している。

下から三番目の世界は一体何だといったら、それは動物の世界であるといわれています。この動物というのは、あまり徳がないのに、善行、善い行ないを積んでいないのに、楽しみだけを求めていると、ね。その世界である。これは、動物を観察なさったらよく理解できると思います。

そして、その下の餓鬼の世界、これは貪る心の強い人が生まれ変わる世界である。そして、その反動として、貪りによって苦しみが生じる世界であるといわれています。この、貪りによって苦しみが生じるとはどういうことなのかというと、例えばここに食物があって、その食物を口に入れた瞬間、消化の炎で体が焼かれて苦しんでしまうだとかね、あるいは、一見食べ物に見えるものを手に取った瞬間、食べ物ではなくなるだとか、そういうマーヤの世界、幻影の世界であるといわれています。

そして、最も下の世界、これは地獄の世界である。この地獄は、大きく分けて三つのパートに分けることができる。

一つは、熱地獄である。この熱地獄というのは、わたしたちが嫌悪によって発する怒りね、その怒りというものの心の働きによって生じる世界、これが熱の世界であるといわれています。

そして、嫌悪によって生じる冷たさの世界、これが寒冷地獄であるといわれています。そして、嫌悪によって相手を肉体的に痛め付けた場合、それは、例えば

針地獄で表わされるように、苦痛の世界であるといわれています。

そして、これが仏教やヨーガでいわれている三界、仏教の言葉を使うならば、欲界、色界、無色界。ヨーガの言葉を使うならば、グロス・ワールドね、これは欲界のことです。そして、アストラル・ワールド、これは色界のことですね。そして、コーザル・ワールドね、これは無色界のことです、ね。

◉幸福になるための投資――真理の実践

では、わたしたち修行者が今生幸福になり、あるいは、来世幸福な世界へ生まれ変わるためには、一体どのような実践を行なったらいいんだ。そして、真理の実践を行なうことによって、どのような変化が出てくるんだということについて、真理の教えではこのように説いています。

まず第一に、経済的に豊かになってきますよ、と。するとね、皆さんはこう考えるかもしれない。「それはおかしいよ、麻原。だって、布施をしたらお金が減るから、豊かになるはずないじゃないか」と。「例えば、奉仕をするくらいだっ

たら、パートタイムに出てお金を稼いだ方が豊かになるじゃないか」と。

しかし、ちょっとここでね、止まって考えてほしい。それはなぜかというと、わたしたちは生きている間に、果たして本当に必要なものに対して投資をしているだろうか。わたしたちは無智なるがために、例えば正しくないお金の使い方、例えば時間の使い方をしているんじゃないかと、ね。

例えば、ここにある人が事業を興した。そして、その事業というものを大きくしたいと考えたと。そこで、一億円の借り入れを行なった。そして、それによって得られる利益というものは、五千万であった。金利は年間一割と。そして、従業員に払う給料が四千五百万であったと、ね。

もし、この人が借り入れをしなければ、従業員に払うお金四千五百万、そして利益分五百万が得られるわけだから、本来はこの事業は正しいといえる。しかし、それに金利分の一千万を乗っけると五千五百万、ね、毎年出ていってしまう。すると、この事業をなせばなすほど赤字になるわけであると。ところが、ものを正しく見ることのできないわたしたちは、正しくない判断によって、借金の地獄に

足を踏み入れてしまう。

◉功徳によって得られるもの

今の話はね、極端な例だけども、少なくともわたしたちは日ごろの生活の中で無駄な出費、あるいは、かえってそのお金を使うことによって害するようなね、出費をしているんじゃないだろうか。真理の実践を始めれば、まず、それがなくなるであろう。そして、心が豊かになり、物質的にそれほど恵まれなくても欲しがらなくなる。そして、蓄えは蓄えとして、功徳は功徳として、生活は生活として生きていけるようになる。

よって、ね、周りから信用を得られる、あるいは家族が仲良くなる、あるいは心が豊かになるという利息をわたしたちは受けながら、着実に蓄えを増やしていくことができるだろう。

あるいは、事業をなしている人はね、心が豊かになり、ものを正しく見ることができることによって、いい商売の相手と巡り合い、そして幸福になることがで

きるだろう。これが、第一のメリットである。

そして、第二のメリットは何かというと、心が豊かになり、周りの人に称賛されるがために、名誉を得ることができる。ここは説明する必要はないだろう。

そして、第三のメリットは何か。その実践を続けていくならば、名誉だけではなく、高い地位に昇ることができるだろう。なぜならば、周りの人がその人を推すからであると。

そして、ね、ここから先は架空に聞こえるかもしれないけど、わたしたちは真実だと考えて実践しているわけだけどね、それよりも徳を積むならば、ある権力機構のトップになることができるであろうと。あるいは、生まれ変わって大統領とか王様になることができるだろうと。

そして、それよりも徳を積むならば、転輪聖王、まあ仏教的な言葉を使うならば転輪聖王として生まれ変わり、徳によって多くの人たちを治め、幸福にすることができるだろう。そして、それよりも徳を積むならば、四天王の世界に生まれ変わることができるだろう。もっと徳を積むならば、ね、帝釈天として生まれ

変わることができるだろう。

そして、もっと徳を積むならば、出家をして、ね、それから真理に到達し、ね、仏陀として生まれ変わることができるだろう。

◉徳の実践と環境の変化

このような徳のプロセスを仏典では説いている。よって、言い方を換えるならば、環境が変化しないような徳の積み方だったならば、やらない方がいい。正しい徳の積み方を実践した結果は、先程のプロセスで現われてくる。ただね、わたしたちは個々、カルマというものを持っている。そして、それは、善業、悪業というものを表わしている。

そして、その悪業が多ければ、功徳を積んでも、芽が出るまではなかなか時間がかかる。それは、ちょうど濡れた薪のようなものであると。濡れた薪に火をおこそうと思ったら、どうかな、なかなか大変だよね。しかし、大量の火種を放り込み、ね、薪が一定の温度以上になったら、一気に火がつく。

功徳も、そのような形で変化する。ある段階までは、悪業が多ければ、濡れた薪の中に火種をたくさん放り込むような状態で、なかなか結果が見えない。しかし、そういうことを一切気にしないで、どんどん徳という火種を放り込んでいくならば、あるとき突然、その濡れた薪は乾いて発火する。そして、いったん火のついた薪は、ね、ぼうぼうと燃え出す。これが、徳の理論である。

◉徳――三つのカテゴリー

そして、その徳の実践をあなた方がなすことによって、あなた方は今生だけではなく、来世、幸福な人生を送ることができるんだよ。これが、インドの哲学を背景とした、どの教えの中にも載っている根本的な教えである。

では、徳というのは一体何があるんだと。これは、三つの布施、五つの戒め、そして七つの善行というね、三つのカテゴリーがある。

まず、三つの布施とは何かというと、一番目は人にものを施しなさいよ。これはね、『マハーヤーナ』に載っているから、あまり今日は詳しくは述べないけど

も。そして第二番目に、人に安らぎを与えなさいよ。第三番目に、真理を流布しなさいよという三つの布施であると。

五つの戒めとは何かというと、まず、生き物を殺してはならないよ。盗みをしてはならないよ。夫や妻以外の者とセックスをしてはいけないよ。嘘をついてはいけないよ。酒を飲んではいけないよという五つの戒めであると。

七つの善行とは何かというと、生き物を殺さないだけではなく、慈しみなさいよ。盗みを行なわないだけではなく、施しなさいよ。できるだけ、エネルギーを漏らさないようにしなさいよ。性エネルギーは漏らさないようにしなさいよ。嘘をつかないで、真実を堂々とありのままに語りなさいよ。そしてね、ここからは少し変わっているわけだけど、一日一食にしなさいよ。これは、午前中にね、一食食べるということが、本当は、最高の修行法の一つなんだね。そして、できるだけ堅いベッドに寝なさいよ。これは、現代の医学でも証明されているよね。堅いベッドに寝るならば、腰痛、ね、あるいは体の老化というものを防ぐと。そして、貪る心を捨てなさいよというね、七つだ。

◉絶対的な幸福の世界へ

これらの実践をなす者は、先程言ったように、まず金銭的に豊かになり、そして名誉を得、地位を得、ある機構のトップに立ち、王になり、そして転輪聖王として生まれ変わり、転輪聖王として生まれ変わり、そして四天王、それから、帝釈天として生まれ変わると。

そして、最後は出家をし、そして僧衣をまとい、真理の実践を行ない、解脱し、夜摩天、それから兜率天、楽変化天、他化自在天、そしてブラフマンの世界に生まれ変わる。そして、ブラフマンの生命欲すら断って、絶対的な自由・幸福・歓喜に満ちあふれている、マハー・ニルヴァーナに生まれ変わりますよということなんだね。

◉大きな恩恵のために早速実践を！

今日の話を聞いて、なかなか大変だとお思いになるかもしれない。しかし、この実践をあなた方がなさることによって、少なくともこの中の半分でもいいから、

実践なさることによって、あなた方には大きな恩恵があるだろう。そして、実際にその実践をなさっている信徒さん方がいて、大きな恩恵を受けていらっしゃる。法というものは、聴くだけでは意味がない。今日からね、早速実践をするようにしましょう。

はい、では、今日の講話を終わりにします。

一九八九年四月二十二日　横浜セネックスにて

尊師からあなたへ

ワンポイント・メッセージ

（質問者A）わたしは十七歳ごろから体が悪くなって、自律神経失調症になったり、肝臓病になったり、いろんな病気をしてきました。その間にも、僕はこういう精神的な世界が全然信じられなくて、大学では唯物論を勉強して、マルクス・レーニンに魅かれたんですよ。共産党にも入って一生懸命やってきたんです。でも、自分の苦悩を解決できないし、病気も治らないし、どうしようもないんです。それで、ヨーガとか断食とか鍼治療とか、あらゆることをしましたが、やっぱり良くならなくて、その上経済的にも困るし、行き詰まって、あるとき死のうかなと思ったんです。でも借金もあって、このまま死んでも、「あいつは卑怯だ」と思われるのがいやだし、死ぬに死ねない状況になっているんです。

それで、わたしの一番の願いは、体を健康にして、さらに欲が深いのですが、結婚もして、最終的には解脱もしたいと願っているのですが……。

（尊師） 一番幸福になれる方法というのは、心の解脱をなさるのが一番早いと思います。「心の解脱」とは何かというと、例えばケガをして痛みがあっても、心に何も影響しない状態です。これを、釈迦牟尼は「心の解脱」といってらっしゃいますね。つまり、肉体的な苦痛を根本として心の苦痛が生じますが、心の苦痛を滅したものはニルヴァーナであると言ってらっしゃるわけです。それを実践なさるのが一番早いんじゃないかな。

どうしてかというと、わたしがあなたを見る限り、煩悩（ぼんのう）がかなり多いと思います。だから、その煩悩を滅却するだけで、あなたの今の苦痛はなくなるでしょう。そして、その後、エネルギーの状態が回復することによって病気を治していくというのがベストではないかと思います。ひょっとしたら、その苦悩をなくした段階で、もう病気の治療はいいや、とお考えになるかもしれません。というのは、肉体的苦痛と心の苦痛とは別個ですから。

じゃあ、どうして麻原、それを証明できるんだと言われるかもしれない。しかし例えば、子供は小さいときケガをしても泣きません。そして、親が血を見て、「ああ、これはほんとに痛かっただろうな」と言って、やっと子供は泣き出すわけです。つまり、肉体的苦痛は心の苦痛につながるのだと親によって、あるいは周りの人々によって教え込まれているということですね。ということは、逆のこともできるわけです。外的苦痛（肉体的苦痛）はあるんだけど、心の苦痛は現われてこない状態をつくることもできるわけですね。だから、そのような実践をなさった方が、一番早くあなたの求めている幸福の状態に到達すると思います。そのためには、煩悩を滅却する修行をなさったらよろしいですね。

（質問者A） 煩悩を滅却する修行というのは、具体的にはどうするのですか。

（尊師） それについては一つ一つのケースに応じて、いろいろな方法があります。一生懸命なされば、そんなに時間はかからないと思いますよ。

（質問者B）仕事をやるとき、結構きつい仕事なもので、エネルギーを使うんですよね。そのとき、できるだけエネルギーを使わないで仕事ができたらいいなって、いつも思っているんですけど。

（尊師）どういう仕事をなさっていますか。

（質問者B）あの、肉体労働です。

（尊師）まず、よくおしゃべりになりますか。

（質問者B）僕はしゃべらないんですけどね。仲間がどうしても話しかけてくるんですよ。

（尊師）そのとき頭で、うんうんと言うだけじゃまずいですか。

（質問者B）ある程度、話の内容を聞かないと。

（尊師）できるだけしゃべらない方が、エネルギーのロスはしませんね。それからもう一つは、例えば今オウムで出している甘露水だとか、あるいは丹がありますね。こういうものを食べて仕事をしてみてください。それによって、おそらく労働のエネルギーの消費はかなり少なくなるはずです。

（質問者B）はい。やってみます。

（尊師）そしてあとはね、仕事から帰って、まあできるだけ多くの瞑想時間を取ると。しかも、そのときには、生起過程の瞑想を行なってください。究竟（きゅうきょう）ではなくてね。生起過程の瞑想っていうのは、精神を集中する瞑想です。これを行なってください。よろしいですか。で、そのとき必ず疲れが出るでしょう。生起の瞑想をやると。しかし疲れて眠った後、すっきりした状態がくるはず。もし究竟過程の瞑想をやったら、そのとき肉体はいったん楽になるけども、眠りから覚めたとき、逆に疲れが残ります。いいですね。それを実践してみてください。

それからあとね、寝るときに「アストラルへの旅」あるいは「光を超えて」あたりをね、お聞きになってもいいかもしれないね。心を和ませてくれますから、エネルギーの回復に役立つでしょう。

こんな願いがかないました！

◎女性とは縁のなかった私が……

稲葉紀人

わたしは、小学校のころから女の子とは全く縁がなかった。オウムに入信し、道場の近くで一人暮らしをしながら奉仕活動をしていたある日、道場に女性からの電話があった。てっきり母だろうと思って受話器を取ると、若い女性の声。その女性は、高校時代の同窓生だったのだが、「急に成績が良くなって目立ち始めたわたしに興味が出てきた」のだとか……。

「文通しませんか」という言葉に法施の可能性を感じ、OKした次第である。

なお、オウムに入信した学期から成績が上がり始め、一年もしないうちに、学年で一番になったことも付け加えておこう。

◎こんなに幸せでいいのかしら

藤原佐和子

オウムに入る前から付き合っていた人とのことですが、オウムに入信してからは、それ以前より幸福を感じることができました。それは、二人の関係がこうでありたいと思う状態でずっといられたり、これが欲しいとか求めなくても、相手の方からプレゼントしてくれたりと、とにかく楽しかったです。

◎寂しいなと思っていると……

片橋一人

オウムに入信してからは、願望成就の連続でした。運が良くなったり、奇跡のようなことが起こったりしました。

中でも、徳を積み出した後は、急に女の子

に声をかけられる機会が多くなり、ちょうど寂しいなと思っていると、だれかがそばによってくるのです。この急激な変化に驚いたのは僕の方で、「修行ってこんな方向にも効果があるんだなあ」と思ってしまいました。

◎少し意識するだけで

バグ

以前は、異性に対して念をかけてこちらを向かせるという感じだったのですが、入信してからは、力まずに意識するだけで、相手がこちらを振り返ってくれるようになりました。

また、ギスギスしていた家庭が、明るくなりました。経済的にも給料がアップしたりと、オウムの修行法、功徳の素晴らしさを感じました。

◎勝手に転がり込んでくる

スラーダ

在家で一人暮らしをしていたとき、昼は仕事で夜はビラ配りのバクティーと道場での修行、および教学に明け暮れているときに、突然いろいろな生活用品が集まるようになりました。電気がまや洗濯機など、いずれ必要になるだろうと思っていると、なぜか向こうから勝手に転がり込んでくるのです。ですから、生活用品で買ったものはほとんどありませんでした。

◎一度も面識のなかった人が……

ソーマミッタ

信徒のとき、仕事と部屋を替えたいと思っていたある日、知り合いの、一度も面識のな

こんな願いがかないました！

いお兄さんがわざわざ訪ねてきてくれて、次の日にはその人のネットワークにより値段も安く条件のいい物件とアルバイトが見つかった。おまけに、欲しいと思っていた冷蔵庫をただでもらうことができた。

◎こんな理由だけで……

広末晃敏

入信四カ月後、瞑想のセミナーがあったのですが、金銭的問題で断念していたところ、突如面識のない大阪の信徒の方が、「わたしの息子によく似ているから」という理由だけで、わたしに代わって費用を出してくれたことがありました。

◎偶然ではなく必ず

桑田晃一

お布施をしたところ、特に思念をしなくても物事が円滑に運ぶようになった。

例えば、電車に乗るときはいつも待たずに、急行が来てほしいときは急行、各駅停車が来てほしいときは各停が必ず来るようになった。しかも、混んでいる電車でも一つだけ席が空いていて座れるということが何回もあった。

しかし、徳を減らすのでそうならないでほしいと思念すると、やがてそういうこともなくなった。

恋愛・その他篇

◎長期バクティーをしながら受験

織田晶子

わたしは受験生だったときも、学校外の勉強の時間をオウムの奉仕活動、修行にあてていました。特に二月も長期バクティーをしながら、受験の合間には深夜セミナーなどに出ていたにもかかわらず、受験したほとんどの大学に合格の運びとなりました。

それが、オウムに入信して間もなく、親戚に当たる上役の人が生活を援助してくださり、少しずつ修行のできる環境に変わっていったのです。仕事の合間を縫っては道場に、バクティーのために通いました。子供たちも自分たちでこつこつとお金を貯めて入信し、暗くなりがちだった家庭がとても明るくなったのです。

◎何千万の借金を一気に返済

マーラー

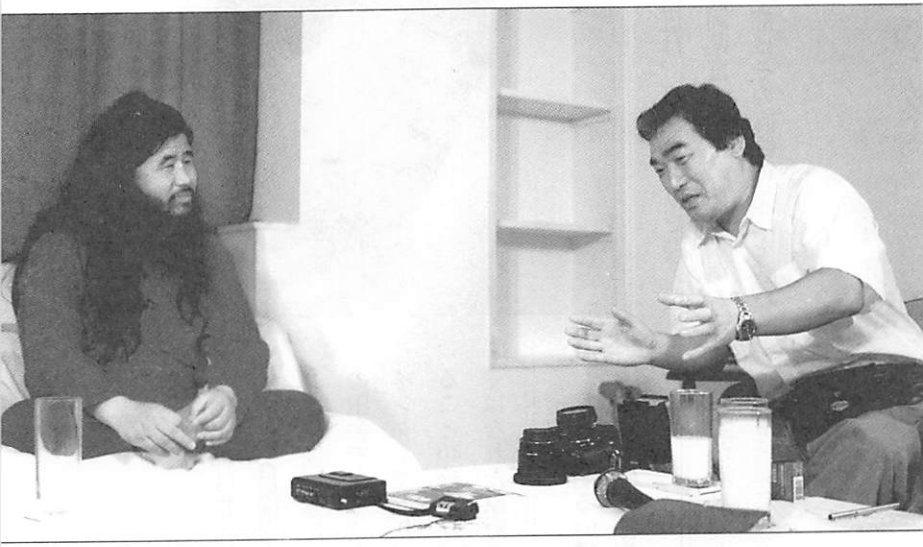
わたしは、ごく平凡な生活でいい、家族が皆健康で幸せであればいい、そんな安定した生活を望んでおりました。ところが、現実はなぜかいつも借金を抱えており、返済に悪戦苦闘していました。

また、不思議なことに、何千万という借金が一挙に返済できたという夢みたいなことが起こったのです。不動産屋さんも不思議がるぐらい高価な値段で家と土地が売れたのです。そして、わたしたちは念願の出家を果たすことができました。

尊師、直撃取材に応える!

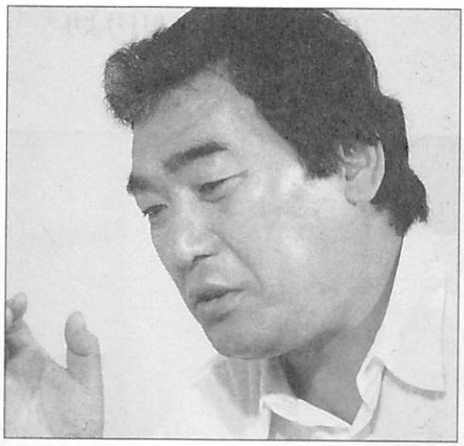
『十人十色』
1991年9月号より

◈



◈

「本当の幸福と死」

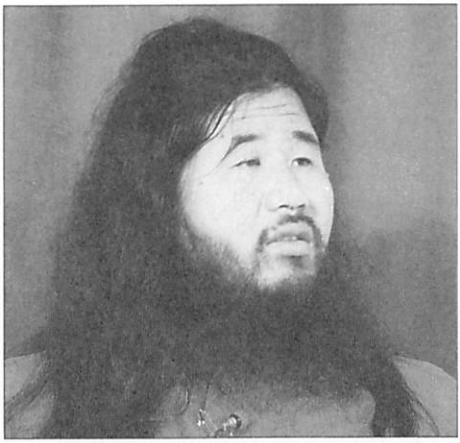


本誌取材班は、真夏も盛りを迎えたある日、静岡県富士宮市にあるオウム真理教総本部にその麻原彰晃氏を訪ねた。

総本部は富士の裾野にあるということから、自然環境の中にあるロケーションは想像できたが、そこは思った以上の田舎である。中央高速道路を河口湖インターで下り、国道139号線を車で走ること40分余り。観光地の喧噪から遠くはなれた原野の中に総本部はあった。

意外に明るい信徒たち。オウム真理教はなぜ若者達の心を掴むのか

お金が湯水のように入ってくるといわれる信仰宗教のイメージからは程遠



く、油断していれば通りすぎてしまいそうな地味な建物である。ここ総本部は敷地面積550坪。150坪の道場を中心に、事務所や研究施設機能を果たす2つの建物が並んでいる。この総本部が完成したのは1988年8月のことだが、これら3つの建物は信徒達自身が建設にあたったと聞き、少し驚く。建築期間4カ月、総工費は道場が4500万円。普通なら1億円は軽くかかるところを自前の工事で節約した。創世期の宗教団体に多学の予算などなかったのだろうが、並大抵の団結力ではできそうもないこと。

オウム真理教の信徒数は現在内弟子800名、在家信徒は5000人。国内に21カ所、海外に2カ所の本支部道場が

ある。信徒数は他の新興宗教に比べれば少ない感じがするものの、この数はいわゆる公称ではなく、きちんと会費を払って信徒になった人の実数だという。

信徒の表情は明るい。こちらの既成観念もあるのだが、ふつう新興宗教の信者達はどこか普通の人とは違った雰囲気、つまり何かに取憑かれたような暗い熱気が感じられるものだ。しかし、この取材に当たって接したオウム真理教の人々はごく普通の若者となんら変わりはなかったし、むしろ生きがいを感じて活動しているためか、いい顔をしている。巷間いわれてきたような「怖い」とか「狂気」といった印象は感じられなかった。

叩かれることなんか気にしない
試練が来世への幸福につながる

さていよいよ、教祖の部屋で麻原彰晃氏と対峙した。

鮮やかな紫色の僧衣を身につけた麻原氏は、目の前の白いソファーにアグラ（瞑想のポーズの一つ）をかいて座った。左側に麻原氏と共によくテレビなどに出演していた、高弟のマイトレー

ヤ正悟師（本名・上祐史浩）が座り、広報担当のミラレパ正悟師（本名・新実智光）らも同席する。マイトレーヤ正悟師は元宇宙開発事業団勤務。ミラレパ正悟師も前身は普通のサラリーマンで両師ともまだ20代後半の若者である。ちなみにこの取材に同席してはいなかったが、高弟のなかでも最も古くから麻原氏の教えを受けてきたマハー・ケイマ正大師こと石井久子さん（31）も、元は日産火災に勤務していたＯＬ。麻原氏自身が今年36歳と若いこともあって、高弟達の年齢も20代後半から30代と若い力で固まっていること、そして、それまでの仕事を捨てて修行一筋に打ちこんできていることがオウム真理教のパワーの源泉であろう。

目の当りにした麻原氏はトレードマークの背中までたらした長髪に髭といういでたちで、思ったより静かな口調ではあるが、時には身を乗り出しながら精力的に我々のインタビューに応じてくれた。信者の人々にも感じたように「怖い」とか「狂気の」といった形容詞は麻原氏にも当てはまらない。それよりは時折みせる笑顔に何ともいえない愛敬があり、教祖に「可愛い」などというのは失礼なのだろうが、親しみ

やすさが先にたった。

まずオウム真理教がこれまで受けてきた中傷や批判を麻原氏はどう感じているのか。

「宗教というものは信じる人と信じない人がいるわけで、信じる人が実践すればいいと思っています。信じないという人にオウム真理教を理解してもらおうと思ってもそれは無理なこと。ですから報道などを通じていろいろ言われることはまったく気にしていません。それよりむしろ叩かれることがあってもそれはそれでいい。その試練を受けることによって、我々が現世で犯した業が落ちるんだと考えています」

あれだけの中傷、非難を受ければ、世の中を恨んでも当たり前とも思うが、麻原氏の答えは意外にもそんな次元をふっきっているようなのである。さらに氏が続ける。

私の仕事は原始仏教の伝導
これからが面白くなってくる

「そんなことより、私の本来の仕事は原始仏教の教えをいかに日本に広めるかということで、宗教家として縁の出来た人々に原始仏教に乗っ取った本当

の道、本当の生き方、そして本当の世界観を話すのが生きがいなんです。今までとは違う真理の法則を我々は日本に持ちこんだわけですから、抵抗があるのは当たり前でしょう。だから社会の反応はそんなたいしたことじゃない。むしろその抵抗が静まってきた今、私が日々実践している教えが浸透していくのか否か。その動きに大変興味を持っています」

中京大学の池田教授によれば、オウム真理教は「戦後最大の弾圧を受けた宗教」だという。戦前にも大本教を始めとして、いわゆる信仰宗教には激し

い弾圧が加えられた。いや、それだけではない。キリスト教などの世界的なメジャー宗教も、その初期には弾圧を加えられた歴史を振り返れば、およそ宗教と名のつくものはすべてなんらかの形の迫害、弾圧にあっているといって間違いない。それはオウム真理教に限らず、宗教というもののすべてが、世の中の根底を覆す力をもっていることに対する、社会の怖れの現れれでもある。

では、オウム真理教の場合はいったい何が世間に怖れられたというのか。麻原氏の言う「今までとは違う真理の法則」とは具体的にはどんなことなのか。我々はオウム真理教に対する一連の騒ぎばかりに注目しがちであったが、ここでオウム真理教の教えを改めて探ってみたい。

31歳でインドへ渡り修行。ヒマラヤ山中で考えたこと、閃いたこと

オウム真理教の「オウム」という言葉は、もちろん鳥の鸚鵡からきているわけではない。「オウム」とは、宇宙の本質的な創造、維持、破壊という言葉を表したもの。すなわち「無常」を

表しているという。

「無常」という概念は2500年前に釈迦が説いたものとして知られている。釈迦は言った。「人間は、自己が積んだカルマ（業）によって、さまざまな世界を輪廻転生するが、無常という法則はどこに転生しようとも逃れられない真理である」と。しかし、もし修行によって輪廻を超えられるなら、絶対に壊れない永遠の自由、幸福が得られ、これこそが最高の幸福、すなわち「解脱」であると説いた。

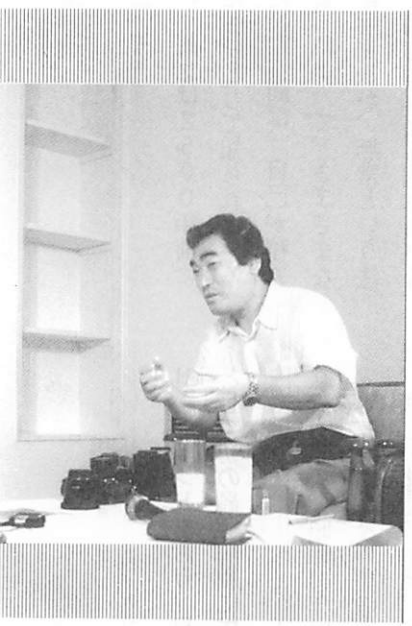
31歳でインドに渡り、日本人として初の最終解脱に成功する

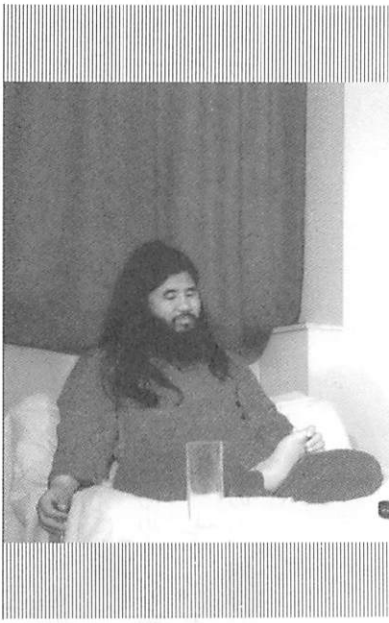
麻原彰晃氏は昭和61年31歳のときインドへ渡り、数々の聖者から教えを受け、厳しい修行に耐え、ついにヒマラヤ山中で独力で最終解脱の境地に達した。

以後多くの人々にこの解脱の境地を味わってもらおうと、原始仏教を土台として、あらゆる宗教とヨーガの本質を含んだ「法」を展開。これまでに242人の弟子を解脱に導いたという。

つまり、オウム真理教はうつろうことのない幸福を求める宗教。物質からも人からも得られない精神の充実を、修行によって自ら勝ち取ることを旨としている。それだけに修行は厳しく、道場での食事は菜食を中心としたメニューで一日一食。24時間集中して修行を続ける人もいる（ただし瞑想状態にはいるので、睡眠以上の休息が得られるという）。だが、原始仏教ではごく当たり前とされたこんな修行も、現代社会では「やりすぎではないか」という非難につながったのだろう。

しかもオウム真理教は社会的に認知





された仏教とは違って、あくまで新興宗教なのだから。

意外なことに、現代の「神様」として注目される麻原氏は「21歳の頃までアンチ宗教だった」という。

しかし、現夫人のヤソーダラー正悟師（現在は正大師）こと知子さんと劇的な出会いをして結婚した22歳の頃から、心の中に変化が起こり、次第に宗教にめざめていった。「私はどちらかというと自己開発のために宗教に入っていったんです。子供の頃から『死』に対する強い恐怖感があったことも影響して、この世は『苦しみ』ばかりだ

と思っていました。その『苦しみ』はどんなにお金があっても、素晴らしい家庭をもっても解決できない、自分の内面的問題であることが分かったとき、私は模索を始めたんです。いったい何のために人は生きているのか。真の幸福はこの世に存在するのか。私はそれを手に入れることができるのかと。その回答をあらゆるものに求めたのです。」

昭和30年3月、熊本県に生まれた麻原氏は、生まれたときから目が悪く、小学校から高校までを盲学校で過ごした。学校を卒業してからは針灸師として活躍。すでにこの頃、針灸院を開いて患者の治療に当たっていた。だが、《いてもたってもいられない。そんな気持ちが昂じて、私の模索が始まった。強い思いであり、信仰だった。言うまでもなく、生活は一変してしまった。仕事などはそっちのけで、まず運命学に手をつけた。自分の運命をはっきり知ろうというわけである。それからというもの、私は『気学』『四柱推命』『断易』『六壬(りくじん)』『奇門遁甲(きもんとんこう)』・・・・と運命学の研究に没頭した。これは何にでも一度はのめり込む性格によるところが大きい。しかし、それらは奥義まで究めたものの、期待していたほど

の効果がないことを知ってがっかりしたのだった》（麻原彰晃著『生死を超える』オウム出版刊）と、精神世界へいっきに没入。以後、仙道、ヨーガと修行を続け、ついに原始仏教へとたどりついた。

そして、ヒマラヤ山中で最終解脱を遂げるまでには8年の歳月が流れた。その修行の過程として、麻原氏は「空中浮揚」「水中クンバカ」などの術を体得。これらは修行によって身につけた集中力を表すものだが、信者の中にはそんな述の神秘性に強くひきつけられ入信した若者も多い。

知的レベルの高い宗教家、最高の心の完成者という声もあって

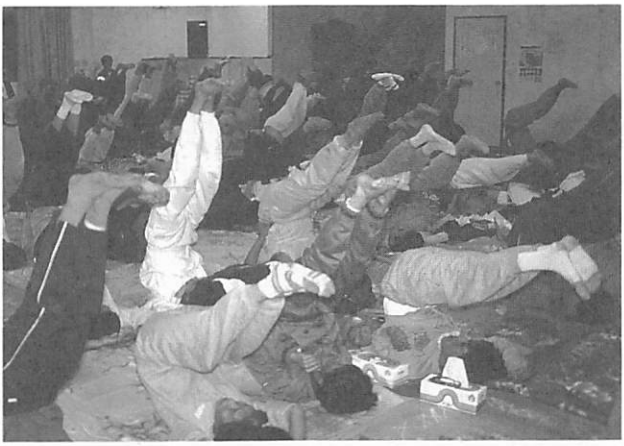
宗教家という職業柄、そのプロフィールにはベールに包まれた部分もある麻原氏だが、少なくても会った印象と、これまでの修行の過程を振り返るなら本物の感じを強く持った。

考えてみれば、いろいろと叩かれるのは宗教家の宿命でもあり、人から悪口を言われないような当たらずさわらずの平凡な人間が多くの信徒を指導する教祖になれるわけはないのかもしれ

ない。麻原氏自身「5000人も信者がいれば、中にはオウム真理教を悪く言うものが出てくるのは仕方ない」としている。逆に、中傷、非難ばかりがひとり歩きしたオウム真理教と麻原氏にも次のような声もあることを伝えておく。《僕は彼がとても高度なことを考えている人で、高い意識状態を体験している人だと認めています。日本の今いるいろいろな宗教家のなかでも知性においてかなり上等なレベルにいる人だと思いました。今の日本で宗教をやっている人のなかで稀に見る素直な人なんじゃないかな》（宗教学者、中沢新一『週刊ポスト』1989年12月8日号）

《最高の心の完成者で、すべてを超越なさった方であるというのを感じます。ほんとにすべてが静まった、私たちを映し出す、まさに鏡です。ですから、尊師の前に出たときは、ありのままの自分が映し出されるので、非常に楽を感ずるんです。私自身よりも私のことをよくご存じな、表現すれば「海」ですね。大きくて、何でも取り込んでしまう、包容力のある海ですね》（マハー・ケイマ正大師）

《自滅の道を歩みつつある物質文明の



中で、麻原尊師とオウム真理教に大きな希望を見いだすのは私だけではないと思います。≫（中川智正）

物質の豊かさだけでは本当の幸福はえられない。どうすればいいか

≪ヨーガの修行を基本とする集団が俗世と関わるのは、世界で初めての試みかもしれないが、人々を救おうという願いに端を発し、そのための具体的な行動システムを提案されているのは、麻原彰晃尊師しかいないのではないだろうか≫（小平武・北海道大学教授）

≪オウム真理教に入信して、自分の性格を冷静に見つめることができるようになり、自分を縛りつけていたものが取れて、会社での人間関係がとても良くなりました≫（宮沢恭一・信者）

≪高校生のとき、入信するまではパッとしない成績でしたが、行法を行い初めてから集中力がつき始め、短い時間でたくさんのことを覚えることができるようになりました≫（溝口博文・信者）

麻原氏の実践する教えは現代文明に警鐘を与えようとしている点にある。

「私は経済や科学の発達を否定しようとしているのではありません。ただ、現代の社会では知性は進歩していますが、人間の欲望も際限なく膨らんでいる。物質を得ることで心の平安が得られるなら問題はありませんが、それによって不幸になるようでは困るわけです」

だから、もう一度原始社会がそうだった、物はなくても精神的に充実した境地を現代社会の生活にとり入れてどうかというのである。だが、逆にそんな麻原氏の教えが、「社会を根底から覆すものとして怖れられているのではないか」とも。現代文明にドップリと浸かっている記者にとっては、考えさせられる発言ではあった。

たとえ病気、試練に襲われても生きているって素晴しいことだ

最後に麻原氏の「死」に対する考え方が非常に興味あるものなので、ここに再現してみたい。

「私には『死』というものはありません。もちろんいつか私の肉体は朽ち果てるでしょうが、私の意識は永遠であるからです。しかしながら、もっと修行、布教をするために、私はできるだけ長生きしたい。せっかくこの世に生まれたのですから、いろんな体験をし、自分の生き方を全うするなら、できるだけ長く生きたいと考えています」

――しかし、長く生きたために、たとえば田中角栄のように晩節を汚す人もいますが・・・

「私はそんな人たちが晩節を汚しているとは思いません。たとえ、晩節を汚している人がいたとしても、その人たちはこれまでの人生のツケを返すために生きているんです。それは業を払うことでもあり、来世の幸福を呼ぶためでもある。だから、生きていること自体が、すごく意味のあることなんです」

仏陀の智慧が光を放ち混迷の時代を照射する

INITIATION

イニシエーション

麻原彰晃著

この名著はすべてを語っていた！

「解脱」「悟り」のプロセスを細やかに説き明かし、最高の修行法を伝授する。

本来、選ばれた弟子にのみ明かされる秘儀――

ヨーガ・仏教の奥儀を極めた修行の正しさは、誕生した三五〇名の解脱者が証明する。

さらに、自民党の大勝と大敗、円高の進行、農作物輸入自由化など、

今日の世界と日本の動向を正確に予言している、驚くべき記述の数々！

◎「解脱」「悟り」の真実／現代の仏陀麻原彰晃が最高の修行法を公開。

◎タントラ・イニシエーションの全貌／チベット密教・ゲールク派とオウムの秘儀を比較する。

◎確実に核戦争だ！／日本と世界の近未来を予言する。

◎総勢三十一名の体験談／「クンダリニー」が覚醒する」「過去世が甦る」「悟りのプロセス」など、これが修行プロセスと霊的ステージの真実だ。

武田 健さん（東京都／学生）
「未法の時代は終わった」ということを確実に感じさせる本である。

松岡謙次さん（愛媛県／警備員）
読めば読むほど、「頑張ろう、やるぞ」と思わせるような素晴らしい本です。

山本 勇さん（石川県／会社員）
解脱するまでの心の状態が、多くの例を挙げてわかりやすく書いてある。

大森恵子さん（山口県／店員）
他の書では得られない絶対なる真理に触れることができた。

武田葉子さん（熊本県／主婦）
「人間として最高の、最終の目的は何か」ということがはっきり示されています。

本間智加子さん（東京都／経理事務）
宗教に対する偏見がいっぺんに吹き飛んでしまいました。

定価2163円 ご注文は書店にてお願いいたします。直接弊社にお申し込みの場合は下記まで。(送料300円)
オウム出版 〒154 東京都世田谷区世田谷2-8-17 電話03(3439)6043 郵便振替 東京2-109325

マハーヤーナ・スートラ

MAHAYANASUTRA

麻原彰晃 著

解脱——それは光を超えて

魂は彷徨する、自由を求めて。
魂は飛翔した、歓喜の世界へ!!

解脱それは、一言では表現することのできない深遠で、広大な世界。今まで、曖昧に定義されていた解脱の段階と状態について、この本はわかりやすく解き明かします。真理の最終地点を目指すあなたにとって、欠くことのできない宝書。

B6判296ページ(巻頭カラー8ページ) 定価3090円

●ご注文は書店にてお願いいたします。直接弊社にお申し込みの場合は下記まで。

オウム出版 (本 社) 〒154 東京都世田谷区世田谷2-8-17
TEL 03(3439)6043 郵便振替 東京2-109325
(営業部) 〒168 東京都杉並区宮前3-8-11
TEL 03(5370)1598

麻原彰晃の世界シリーズ

人はなぜ麻原彰晃を尊師と仰ぎ、彼のもとに集まるのか？
その答えがこの本に集約されている。
麻原尊師の多彩な魅力を満載したファン待望のシリーズ。

絶賛発売中!!

PART-1

幸福に至る四つの実践

B6判 定価2500円

仏教の基本ともいえる「四預流支」。多彩な側面から縦横無尽に説いた画期的な説法群は、魂の解放を願う人にはもちろんのこと、幸福な人生を求めるすべての人に本当の生き方を指し示す。

PART-2

尊師、麻原彰晃が斬る!

B6判 定価980円

願望成就の秘訣、UFO&宇宙人、医学、幼児教育、音楽、食養、輪廻転生etc……。麻原彰晃尊師の魅力たっぷりの説法に、歌手、鹿島とも子さんとの対談も加わって、ますます充実。

PART-7

仏教真理「八正道」

B6判 定価980円

近日発刊予定

PART-3

真実！六道輪廻

B6判 定価980円

永遠の真実"六道輪廻"。すなわち、わたしたちはこのサムサーラ（苦界）をさまよい、苦しみ続けているのだ。果たして、ここから抜け出すことはできるのか？臨死体験・大霊界・チャネリングなど、間違いだらけの死生観に終止符を打つ書。

PART-5

絶対の真理

B6判 定価980円

善業も悪業もなしたことが必ず返ってくる――幸福・不幸の根本原因であるカルマの法則を多くの実証例を交えて説く。

PART-4

宗教にだまされるな！

B6判 定価980円

霊障、水子供養、先祖供養、守護霊……。この世にはびこる間違った観念を打ち破り、正しい道を説き示す麻原彰晃尊師。本当の幸福と心のやすらぎを得たいあなたに。

（価格にはすべて消費税が含まれています。）

● 全国の有名書店にてお求めください。弊社に直接お申し込みの場合は下記まで。

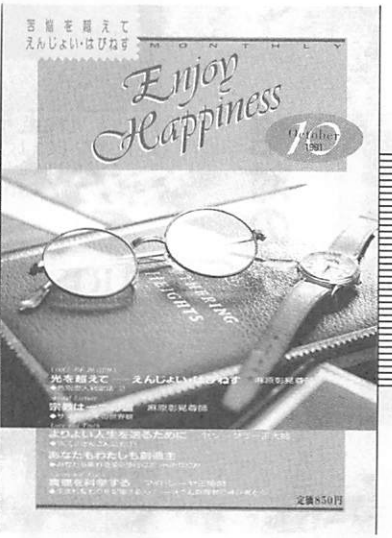
オウム出版 本 社 〒154 東京都世田谷区世田谷2-8-17 TEL.03(3439)6043 振替 東京2-109325
営業部 〒168 東京都杉並区宮前3-8-11 TEL.03(5370)1598

笑顔の明日を予感させるライフクリエートマガジン

Enjoy Happiness

えんじょい・はぴねす

月刊『えんじょい・はぴねす』



――主な内容――

◆Voice of Buddha
最終解脱者が贈る幸福メッセージ
「光を超えて――えんじょい・はぴねす」
麻原彰晃尊師

◆Special Lecture
精神世界ファン必読の特別講義！
「宗教は一つの道」 麻原彰晃尊師

◆JĀTAKA Stories
「仏陀釈迦牟尼からの贈り物
――釈迦牟尼の輪廻転生に見る真実」

◆Science and Truth
仏教の真理を科学の視点で斬る！
「真理を科学する」

◆あなたもわたしも創造主

などなど、他の雑誌では絶対に見られない興味深い情報が満載！

「幸せになりたい！
でも、信徒になるのはちょっと……」
そんなあなたに贈る
最高のプレゼント！

『えんじょい・はぴねす』の定期講読を申し込まれた方は、様々な特典が受けられる〝EH会員〟になることができます。EH会員は信徒ではありませんが、自由にオウムのイベントに参加できますし、全国や海外の本部・支部をいつでも利用できます。お気軽にオウムをのぞいてみませんか？

特典の一部を紹介すると……

◉オウム主催のイベント、説法会等へ自由に参加可。

◉幸福情報を満載したEH会員手帳をもれなくプレゼント！

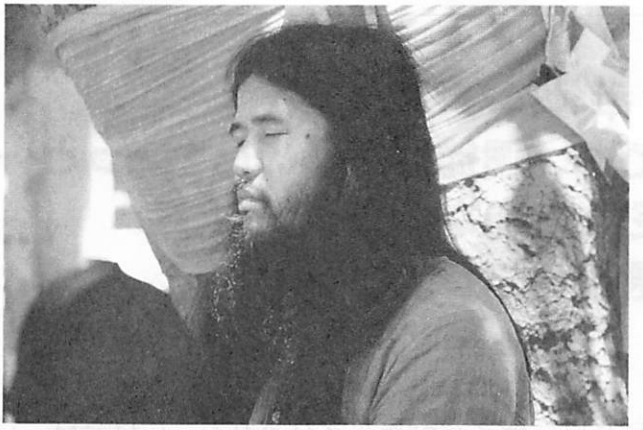
◉成就者との対面および電話による悩み相談。

◉各種販売物を信徒価格で購入可。

〝えんじょい・はぴねすの会〟会員（EH会員）になるには？

※入会金無料。月刊「えんじょい・はぴねす」の定期購読を申込み、料金の払い込みが確認されるとEH会員となります。
なお、定期購読の申込みは6カ月単位で郵送料込み6000円です。

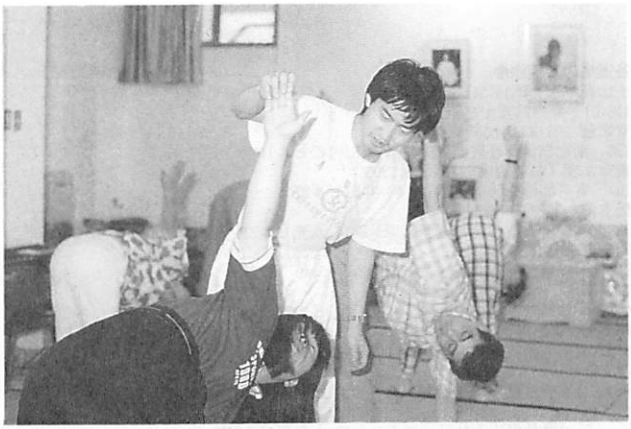
※詳しくはお近くのオウム真理教本部・支部までお問い合わせください。



至福の未来をあなたの手に

オウム真理教 AUM SHINRIKYO

心身の悩みを解決したい
超健康体を得たい
豊かな生活を送りたい
素晴らしい人間関係を築きたい
スーパー・パワーを身につけたい
来世も幸福に生きたい
解脱し、永遠の至福を得たい



……などなど、様々な願いで頭がいっぱいのあなた。日本でただ一人の最終解脱者・麻原彰晃尊師率いるオウム真理教は、完璧な教義に裏付けられた最高の修行法で、あなたの夢を早く確実に実現します。素晴らしい未来を見つけに、あなたも気軽にオウム真理教の門を叩いてみませんか?

※資料請求券を貼付したハガキ、または電話にて最寄りの本・支部までご連絡ください。入信案内等、詳しい資料をお送りします。

キリトリ線

麻原彰晃の世界PART6

資料請求券

◆各道場のご案内◆
富士山総本部　0544(54)1267
〒418-01　静岡県富士宮市人穴381-1
東京本部　03(3327)8565
〒156　東京都世田谷区赤堤2-42-5 杉田村松ビル1F
新東京本部（杉並道場）03(3396)9393
〒167　東京都杉並区下井草4-4-4　井口ビル2F
大阪支部　06(397)1022
〒532　大阪府大阪市淀川区西宮原1-8-14 八光ビル2F
福岡支部　092(474)2877
〒812　福岡県福岡市博多区博多駅前2-6-15 第一渡部ビル6F
名古屋支部　052(252)0709
〒460　愛知県名古屋市中区栄5-8-14 万国ビル3F
札幌支部　011(241)4938
〒060　北海道札幌市中央区北2条西2丁目19-1 チサンホテル本館2F
京都支部　075(371)3759
〒600　京都府京都市下京区堀川通り松原上ル五軒町384 松本ビル2F
仙台支部　022(268)3904
〒982　宮城県仙台市若林区河原町1-4-20 十全会ビル2F
金沢支部　0762(51)8457
〒920　石川県金沢市京町25-20 ソフトオフィスビル2+4 2F
高知支部　0888(84)8286
〒780　高知県高知市はりまや町2-8-8 安藤ビル2F
広島支部　082(264)6250
〒732　広島県広島市南区西蟹屋4-4-18 和田ビル3F
横浜支部　045(243)8079
〒231　神奈川県横浜市中区若葉町3-41-2 コスモ伊勢崎長者町ビル204
和歌山支部　0734(24)2859
〒640　和歌山県和歌山市駿河町42 和歌山酒販会館2F
水戸支部　0292(26)8044
〒310　茨城県水戸市中央2-2-1 HDビル6F
船橋支部　0474(66)4965
〒274　千葉県船橋市新高根6-26-18
埼玉出張所　0485(74)6205
〒366　埼玉県深谷市荒場441-8
布施精舎　03（3476）5065
〒150　東京都渋谷区道玄坂1-15-3　プリメーラ道玄坂317号
〈海外支部〉
ニューヨーク支部　212(421)3687
8 East 48th St. #2E (2nd Floor), New York, N.Y. 10017 U.S.A.
ボン支部　(0228)616647
Auf dem Hugel 48, Endenich, 5300 Bonn 1, S.R.Germany

麻原彰晃の世界 PART 6
「願望成就の秘法　今生と来世を幸せに生きるウッタマダンマここに公開」
1991年11月24日　初版発行
定　価　980円（本体951円）
発行者　松本知子　石井久子
編　集　オウム出版広報編集部
発行所　株式会社オウム
〒154 東京都世田谷区世田谷2—8—17
電話　03（3439）6043　振替　東京2—109325
©Shoko Asahara 1991
ISBN4—900497—79—7　C0014　P980E
※乱丁・落丁がありましたらお取り替えいたします。

麻原彰晃の世界 PART 6

願望成就の秘法

麻原彰晃

ISBN4-900497-79-7 C0014 P980E 定価980円（本体951円）